無産階級戰闘雜誌

進め

一部拾錢

大正十二年十一月三十日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）
昭和二年十月一日發行　昭和二年九月二十八日印刷納本

第五年　第十號

十月號

無産青年に望む……卷頭言
原法相の死刑事務
簡捷と サッコ、ヴアン
ゼッチの死刑問題……布施辰治

同人時評
◆資本主義末期に於ける勞働組合運動の懊惱
◆自作農創定案と共をめぐる妄論
◆奉天に於ける排日運動を評す
◆民政黨爆露の必要
◆試驗地獄か、生活地獄か

社會民衆黨の社會的根據と其の行方……佐藤謙郎
親善の裡に潜む罪業の評價……牛窪愛之進
全土戰報……

農村の子供の權利と義務……神庭光雄
農村において展開さるべき鬪爭……田口兼次郎
ブルヂョア、デモクラシイに就いて……羽田光雄
鐘を鳴らせ全國の小作人……吉田源藏
福田博士に與ふ（嘘つきか？馬鹿か？）……向軍治
農民は無産階級戰線の重要な一翼に隊列せよ……原田今朝二
講座 國際勞働運動……淺野研眞
戯曲 同志の人々……吉田金重

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◆誌代一ケ年分拂込者にマルクス六寫眞を無代贈呈◆

社告

演説會、座談會

地方の支局や有志諸君から、よく演説會を開くから本部から辯士を派遣して貰ひたいとの申込がある。申込があれば何時でも都合をつけて行く事になつてゐるが、旅費の實費を出して呉れないと一寸行きにくい事情にある。今年も長野や茨根地方を初め數箇所へ宣傳演説に行つたから、希望の向は申込んでくれ給へ。何時でも喜んで行く。

「進め」と實際運動

「進め」社は實際運動に入つてゐない様に見られる向きがあるが、事實は全國に渡つて奮闘してゐる。殊に組合運動のない地方にあつて、勇敢な青年達によつて組合の組織が促進され、信州の運動などもその一例であるが、青年團の改造が着々と行はれてゐる。「進め」は現在三萬の讀者を有してゐる。「進め」によつても其の運動における綜合及び現在及び將來にもつべき[illegible]はつきり認識さるゝ事と思ふ。「進め」は全無産階級の雜誌であるから、希望があれば遠慮なく申込んでくれ給へ。事實、毎日十通の署名や問合せや支局の申込や、個人讀者申込があつて本部員一同汗ダクダクで奮闘してゐる。五萬、十萬になる事もやがて近い事であらう。今年中に十萬人の讀者同志を得る事を確信してゐる。本部員も諸君に負けず奮闘して「進め」の内容外觀共に完備せしめ様と思つてゐる。無産者になくてはならぬ雜誌となつた。

パンフレット リーフレット

「進め」のパンフレットは當局の忌み嫌ふところである。何故なら戰闘精神の充實したものであるから。ブルヂョア政府は發賣禁止をもつて挑戰してくる。

現在發賣を禁止されてゐるのは、『生くる權利と儲ける權利』『農民諸君に與ふ』の二つで、これも再版したが、前者はもうすつかり賣切れ、後者は殘部僅少になつた。

『生きる權利、儲ける權利』は近い内に三版を出す豫定である。『唯物史觀解説』はすつかり賣切れである。

今年出版する豫定の分を擧げれば、金照[illegible]氏の『農民政策』『商業研究』淺野研眞氏の『世界勞働運動史』等がある。尚其の他色々計畫があるけれども、今は發表しない。それから、宣傳用として適當なリーフレットも刊行する考へである。

事務所、研究會

近い内に事務所だけ澁ケ谷から離れて、市内の便利なところに進出する考へである。そして、愈々積極的方針を取る考へだ。事務所が決定すれば研究會でも開きたいと思つてゐる。

『進め』綴本

宣傳用として『進め』の古い綴本を一部一錢で發賣するから、どしどし利用してほしい。大阪事務所でも、東京本部でもどちらでもよろしい。『進め』は何と云つても創刊以來六個年に近いのであるから古い多少の殘本がある。古いと云つても馬鹿にしてはならない。一行一句もムダがない、表紙だけ見せても[illegible]するに足るものがある。

支局及び同志諸君に

府縣會議員選擧や、來年の[illegible]には積極的に參加して努力されたい。[illegible]、組合と連絡を取つて我々の存在を擴張し『進め』の名聲をして[illegible]しむるな。

備へよ！智識は力だ!!

第二十版 マルクス寫眞集

内容

マルクスの生家、マルクス夫人、マルクスの原稿、マルクスの博士免状、マルクスの署名、マルクスの旅行免状、ロンドン亡命中のマルクス、ロンドンに於けるマルクスの住宅、資本論を注[illegible]時代のマルクス、晩年のマルクス、マルクスの墓、の十一枚四六倍版アート紙、印刷鮮明、極めて美麗。

本社出版　一部五拾錢　送料四錢

第十二版 社會思想家寫眞集

内容

サンシモン、フーリエ、オーエン、プルードン、マルクス、バクーニン、エンゲルス、ウヰルヘルム・リープクネヒト、カールリープクネヒト、クロポトキン、ラッサール、レーニン、トロツキ　の十五枚。四六倍版アート紙印、鮮明、極めて美麗にり、無産階級の永久に記念すべきものである。

本社出版　一部五拾錢　送料四錢

第十版 日本勞働運動小史

淺野研眞述　定價五拾錢　送料四錢

内容

明治大正を通じての日本に於ける勞働者解放運動の全分野に渉つて、細大洩らさず僅か百三十餘頁の内に收めた[illegible]なパンフレットである。[illegible]荷も日本プロレタリア運動の史的背景を[illegible]らんとする者は必ず一本を備ふべきだ！

再版 生きる權利と儲ける權利

吉田源[illegible]著　定價拾錢　送料二錢

内容

生は權利だ、人間として生を享けた以上は何人と雖生きる權利がある。然るに資本主義は[illegible]階級の權利を[illegible]にしてゐる。本書は不合理なる現制度を解剖して、[illegible]を呼び、無産者の進路を示せる絶好の社會主義入門書である。[illegible]とする無産青年は讀め！

三版 農民諸君に與ふ

神近[illegible]之介著　定價拾錢　送料二錢

内容

[illegible]所を知らざる農民諸君！[illegible]而して諸君の[illegible]の、所謂農村問題に對し、[illegible]頭せる近代社會思想は何を以つて之を解決せんとするか？農民諸君は[illegible]つて、本書の示す社會主義の陣營へ來たれ！

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第五年 ■ 戰鬪 ■ 進め ■ 雜誌 ■ 第十號

無產青年に望む

われわれの使命は、巨大なる××を手に入れる事なくして遂行出來るものではない。ロシャにては、ロシャの人民の自由と平和を守る爲めに巨大なる赤衛軍が民衆の意志の上に編成されて資本主義國家の動きを見、世界の壓迫された民族の叫をきく。反之、資本主義國家の列強が、軍備の擴張を企てるは何の爲めか。大資本の帝國主義的侵出の爲めのそなへであり、國内の大衆運動を××せんとする企てゞある。

軍隊の決定的部分は吾々無產青年である。資本家はこの軍隊の力をもつて絶えずその暴富と繁榮をもたらした。無產青年によつて編成され、無產者の汗と血の結晶によつて維持された軍隊は過去において餘りに資本家の野心の爲めに利用された。ひるがへつて見よ。資本家的戰爭は、無產大衆に疲勞と、悲しみとより外何者も與へず、しかもそれは大なる人類の罪惡である。しかし作らこの軍隊を動かす力が、無產階級の上に立てられ、社會生活にわざわひをまくものを除く爲めの力であつたなら、その時において軍隊の動きは××××××を作る前提となるのである。軍隊を資本家の手より××××に。その爲めには、無產青年は軍隊を忌避してはならない。軍隊を無產民衆の巨大なる力とするには。

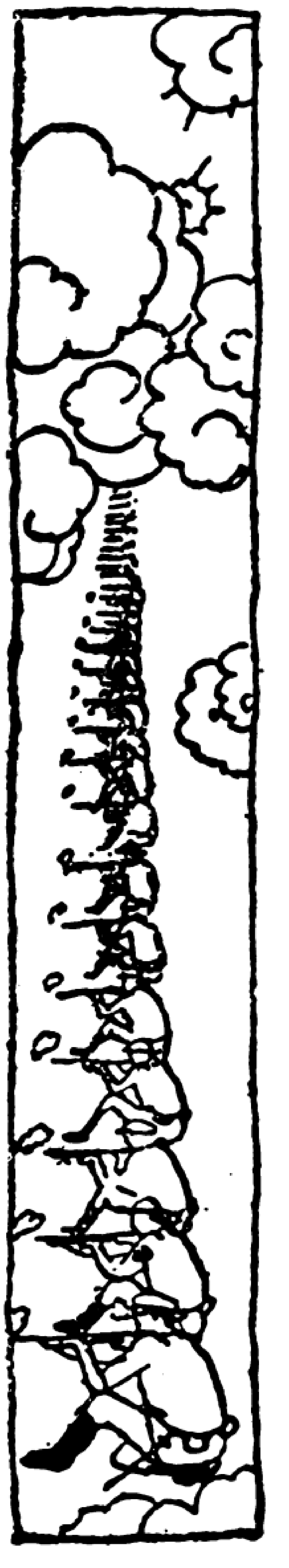
無產階級運動を斷壓し、一部××資本家の前に民衆の粒々苦心の結晶を捧げしめ、亦滿蒙を植民地化さんとする田中内閣においては農村においては農民の生存權はふみにぢられ、勞働者は失業の嵐と、賃下の嵐におそはれ、大衆の行方を指示せんとする言論機關は完全に封鎖され、わづかばかりの政治的自由のおもかげすら、然りおもかげすら、はるか彼方に奪はれ、大衆の中央權力への不平不滿を高めてゐる。かゝる時、農民を父にもち、勞働者を兄にもち、亦自らそうした暴虐をかつて受けた無產青年を抱擁する××が何時迄も資本主義を××るものであり、社會の動きと沒交渉なものであり得ようか。最近の兵卒たちの行動にわれわれは明かに現在の××に對する××を見る事が出來るのである。

無產青年は軍隊を忌みきらつてはならない。そして、何時にても×××××××するだけの準備を急がなくてはならない。(神庭)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

同人時評

資本主義末期に於ける勞働組合運動の懊惱



資本家（企業家）＜大企業家／小企業家
小商人――俸給生活者

從來これ等の階級層は資本主義系統にあつて兎も角も同一步調の進展を遂げてゐた。そしてこれ等の資本主義系統がその對抗目標とする勞働者階級との抗爭に於ては、系統的一致の步調を以て勞働者階級との果敢なる鬪爭を續けて來た。隨つて當時の階級層は單純に、資本家階級と勞働者階級との分離對抗であつた。

この時代にあつての社會主義的發展は、この鬪爭の中に求め、この鬪爭の中に解決を見様とした。と共に、この運動の全面的發展を重視した。一方、當面せる對立鬪爭にあつては勞働者階級の對立目標は、大企業家と言はず、小企業家と言はず、なほ當時これ等の系統にある小商人、俸給生活者は全部それであつた。隨つて勞働者は敢然として孤立し、敢然として鬪つた。

（日本の社會運動史上に於てサンヂカリズム時代と稱するのはこの時代である）

卽ち當時の勞働組合運動の鬪ひは、當面せる企業（大企業、小企業の區別なく）との徹底的鬪爭であつた。

然るに、近代、資本主義末期に於ける大資本の獨占的傾向と、行詰れる政治權力との結合は、他のあらゆる階級層との明確なる離間を決定すると共に、更に明確なる對立關係を構成した。

それは次の如き對立關係に置かれる。

◆大資本家＝大企業家

◆小商人＝小企業家

◆勞働者＝俸給生活者

大資本と大企業とは近代資本主義の中核を決定するものであつて、社會的にも、經濟的にも密接なる關係を抱持して相互的結合を結成する。

小商人、小企業家、俸給生活者の各者は從來の事情にあつては資本主義の系統に屬して、相互關係を抱持し來つたものであるが、近代資本主義の下にあつては、經濟的には全く相互關係を解體して獨立的被壓迫階級の存在を示してゐる。而してこの關係の最も主要點は、この中間階級層が、大資本と政治的權力との結合の下にあつては、主として政治的被壓迫階級としての共同的對抗關係を結ばなければならぬ事情にある。卽ち之等の社會的結合の存在を示す意義である。

勞働者、俸給生活者は、旣に理論的に經濟的被壓迫階級である。然るに從來の經濟組織の中にあつては、俸給生活者は實情的に資本主義系統の中に決定せられてゐた。それが資本主義末期に至つて、資本主義系統の中より振落されて、本來の經濟的被壓迫階級の中に立返つた。そして俸給生活者は勞働者階級の階級層に繰入れられる事を認識した。隨つてこの二者は經濟的被壓迫階級として、または社會的被壓迫階級として明確に認識し、抱合して、壓迫階級への對抗陣を張つた。

（而し、小商人、小企業家、俸給生活者の共同關係は、意識的結合の事情にあるものではなく、無意識に政治的動作の中に結ばれて行く關係であり、勞働者、俸給生活者の關係は、意識的に、大衆に抱合して經濟的、社會的共同陣を張る關係である）

この近代的資本主義の下にあつて、勞働者階級は他の階級層との如何なる關係の下に進展すべきか？懊惱はこゝにある。

隨つて問題は左の如く分けられる

イ、社會主義的進展

ロ、當面せる經濟問題の解決

この二つの關係は離すべからざる有機的關係を抱合してゐるが、便宜上これを二つに分類する。

先づ「（ロ）、當面せる經濟問題の解決」をみる。これは勞働組合運動の擔當する一面の重要任務である。

この問題に就いて、他の階級層の關係に就いて、最も密接に、重要に結びつくものは大企業家と小企業家との關係である。特に從來よりも複雜なる關係を結びつくものは小企業家である。

勞働者階級が大企業家との「當面せる經濟問題」に於ける抗爭關係は、明確なる階級鬪爭意識を以て抗爭し更に（階級的勝負の推理的推斷を決定して益々、深刻なる鬪爭關係を持續して、所謂「勞働者階級と資本家階級とは利害を一致する何物もない」信條の下に鬪

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

争議を張る。

小企業家との「当面せる経済問題」に於ける抗争関係は如何。

これは前述の如く、近代資本主義の時代にあつては、小企業家は既に経済的社会的被圧迫階級であつて、既に政治的反抗を劃しつゝある階級である。更に彼等は近代的資本主義系統の中より除外せられたる階級である。そして既に没落過程を辿りつゝある階級である。

この性質の階級との「当面せる経済問題」の解決、抗争こそ、方針、戦術こそ複雑である。

更にその内容を解剖しやう。

小企業家が、その没落のモガキより企業的破綻を彌縫せんとしてモガキを振向けるものは、問題に直面せる労働者である。そして彼等の彌縫手段は大体左の如くである。

イ、操業短縮、ロ、解雇、ハ、賃銀値下げ、ニ、臨時休業、ホ、工場閉鎖等

この手段に対して、労働者階級が、徹底的抗争を以て対抗し、更に従来の方針を取つて反つて賃銀値上げ、就業時間の短縮等の積極的要求をなしたる場合は如何なる結果を生ずるか。

イ、小企業家はたほされる。
ロ、労働者は失業する。
ハ、組合員は減少する。

こゝに労働組合運動の「当面せる経済問題」の解決一に非ざる破壊を招来する。

この解剖の結末に立つて初めて「社会主義的進展」の存続的関係を発見する。然し、この矛盾の中に立つて光明を発見し得る唯一の途は「社会主義的進展」への存続的躍進あるのみである。

更に「当面せる経済問題」の解決に立返つて、小企業家との関係に大いなる懊悩がある。随つて、それは単純なる労働組合主義の大なる懊悩でなければならぬ。

更に「社会主義的進展」への進展に当つて、小企業家と如何なる関係を結ぶべきか、また更に小企業家の持つ政治的性質と如何なる関係を結ぶべきか、これ等の関係を綜合して無産政党の急務を詳すべきであるが、この點は後日に廻して筆を置く。（佐藤[illegible]郎）

自作農創定案と其れをめぐる妄論

出来る出来ないは問題外として、嘘でも何でもかまはぬ新看板の美しいのを出して客を釣らうとするのが既成政党である。九月から、来年の総選挙の前哨戦である府県会議員選挙があるので、政府や、民政党は、そうしたなるべく美しそうな人を寄させそうな看板を捜しはじめた。殊に普選は無産階級を獲得する事が一番の問題であるから無産階級に歓迎されそうな看板を掲げる。しかし、ブルヂョア政府に取つては自分達の立場といふものがあつて、無産階級の為めを思つて何事もしないのである。自分達の為めには無産階級を搾取せねばどうせやれ切れないだらうから。けれども、そんな事をはつきり云つては都合が悪いし、無産階級を怒らせるので、嘘八百を並べ立てる。政略政策といふのが即ちそれで、表面はよさそうな事を云つておきながら、裏に廻つてこつそりと大仕掛な搾取をする。この餌に釣られて来たらひどい目に会つて了ふ。元来、政府の政策は、人気取りと、搾取と、無産階級運動の撲滅といふ風な色んな道具が使つてある。

政略政策の代表的なものに自作農創定案がある。この自作農創立案が地主の土地買上策であり、農民組合のブツ壊しであり、地主に代つて国家が利子の形式で強制的に小作料を取上げ様とするものであり、土地の価格吊上策であつて、それが百姓達の愛地心をねらつた投機も投機、大投機である。この事はもう論議し盡されてゐる。

しかし、私の不思議に思ふのは、所謂最尖鋭なる理論家諸君を網羅すると思はれる「政治批判」の諸君が、自作農創立案をもつて「経済的譲歩」であると見られてゐる事である。「経済的譲歩」と云へば利益を与へる事である。撒餌政策と云ふのは利益を与へる様な振をしてそれが似ても似つかぬ大嘘の政策の事である。前者と、後者は質的に異なるものである。自作農創立案と云ふ恐ろしい陰謀をもつてゐる大看板を「経済的譲歩」と見るのは[illegible]こな感じを与へる。左党の諸君に云はせれば「経済的譲歩」は与へても、政治的に支配網を確立すれば、一寸やそこらの譲歩は止むを得ないだらうとして政府はそうするのだと、勿論、それには異議ないとしても、自作農創立案を「経済的譲歩」であると為すのは誤りである。自作農創定が「経済的譲歩」であるとの見解は、その政策が、無産階級にそれ一つと他と切離せば利益を与へるものであると云ふ事になる。もし他の政策において、別な方面において搾取、圧迫するとも、自作農創定案それ自身は「経済的譲歩」であつて利益を与へるものであるといふ考へである。其処で、私達の自作農創定案と「政治批判」の諸君のそれに対する見解とは、越ゆべからざる溝がある。何故なれば、我々は経済的譲歩でなく、全然別なそれと反比例してゐると思ふからである。それが、よし表面において「経済的譲歩」の如く見せかけても。

もし、自作農創定案が「経済的譲歩」であるなら、吾々は受け入れてよい筈である。小作法の如きの實現は明かに

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

「經濟的讓歩」であるに違ひない。吾々は敵の政策でも利用出來るものなら、しつかりと利用していゝ譯である。されば、私達は小作法の如きを常に要求して來た。しかし、自作農創定案を徹頭徹尾排擊するのは、それが本質的に反無產階級的なものに外ならないからである。小作法の如きは、私達の武器に轉化せしめる事が出來るのに反して、自作農創定案は、私達の火薬をしめらせ樣とするもので、無產階級意識を眠りこませようとするものであるから、私達は極力排擊せざるを得ない。

（神庭）

奉天に於ける排日運動を評す

政府系の機關紙と目さるべき、中央新聞は、奉天に於ける排日問題を評して我が既得權の解決を妨害する運動であるが故に、斷然たる態度をとれ、と言ふてゐる。而して政府の積極政策は、この既得權の解決（所謂滿蒙五鐵道の敷設、商租權等）であつて當然の要求であると稱する。更に奇怪なるは左の一文である、

抑々張作霖氏がその根據地たる奉天を空にして中央に乘り出し、大元帥の椅子につくに至つたのは果して彼れ一人の實力で出來る然當であらうか、張氏をして其の野心を行はしめた**大なる陰の力**があつた筈である。

即ち張作霖の野心を行はしめた大なる陰の力があつた筈の、その『陰の力』こそ從來張作霖を操つて來た、そして滿蒙を『勢力範圍』に迄押擴げた大なる力である。然るに資本主義の必然的なる行詰りより到來するところの、帝國主義侵略は、單なる『勢力範圍』として止めることを突破して、滿蒙を殖民化に迄決定しやうとする策を當に、それが田中内閣の積極政策となつて具現したのである。更に支那全體の情勢は日、英、米の殖民地化運動の下に安定をみ樣とする形勢にある。目下支那の戰亂は、日、英、米の殖民地化運動と露國の××運動との戰ひである、支那軍閥はこの渦中にあつて彼等の小野心を滿たさんとしつゝある。

この戰禍の中にあつて支那民衆は、自國の位置を見極めつゝある、更に彼等自身の強大なる力を見極めつゝある而して列強國の積極政策（殖民地化政策）に明白なる反旗を翻へした。即ち奉天に於ける排日運動がこれである。

この運動は支那民衆が、支那軍閥を眞實に見放した證左である、從來支那の安定を託して信頼したる軍閥が明かなる列強國の手先たる事を知つた彼等自らの解放運動である。

更に奉天排日運動に依つて日本の憂色がある。または日本の認識不足がある。それはこの運動が支那民衆の自らの覺醒的運動たることを知らずして、一に責を張作霖に負はしめ樣とする點である。然るが故に、中央新聞の如き政府自らの馬脚を露はして張作霖を攻めたてゐる。

今や田中内閣の危機である。斷然たる態度をとれと號令する彼等の懊惱は、却つて支那民衆との難問を決定し舊式外交の醜態を暴露すること火をみるよりも明かである。（佐藤渡郎）

民政黨曝露の必要

近頃、無產階級の新聞、雜誌等は、その全力を專ら、政友會の政策の暴露に集中させてゐる。國家權力を恣に來て、土地立入禁止を頻々と獎勵し、小作人を飢餓の淵に突落し、或は無產階級演劇を口實をもつて禁止し、言論の自由を壓迫し、ありとあらゆる暴虐振りをなしてゐる政友會内閣が私達の當面の目標ではあるが、それと同時に民政黨の政策を詳細に暴露する必要がある。何時の時代でもそうである如く、政黨は出來る出來ないは第二の問題として美しい政策を揭げて、政府黨と戰はねばならない。如何にして民衆を收攬すべきかゞ第一義であつて、その政策の實際上の研究、即ち、何時でも自分が政權を握つたら實現させる確信などはあり得ないのが通例である。

例へば政友會が在野時代盛んに唱へてゐた地租移讓政策なども、一度政友會内閣が出來あがつても、新規蒔直しに調査會に時日をかけねばならなかつた。少くとも、政黨なるものは社會の動きを左右するものであるから、その揭ぐる政策（殊に一枚看板）に就いて實現上の研究を充分盡して、いざと云ふ場合にマゴつかぬ樣にしなくてはならない。

府縣會議員選擧戰に臨んで、政友會は例の地方分權、地租移讓等をならべ立て、それに對抗する必要から義務教育費全額國庫負擔を民政黨は揭げて來た。地方分權、地租移讓、義務教育費國庫負擔等はそれ自身の本質的に見れば決して反對すべきものではないが、たゞ、それが如何なる意圖の上に如何なる方法によつて實現され、亦唱導さるゝかゞ問題である。

政友會の地方分權、地租移讓等が如何なる意圖の上に立てられてゐるかといふ問題は、前に云つた樣に、無產階級によつて大抵は曝露し盡されてゐるが、民政黨の政策には餘りの努力が拂はれてゐない。

私達はあらゆる機會を提へて、欺瞞政策をもつて、或は好餌政策をもつて民衆に接近しようとするブルヂョア政黨と戰はねばならない、されば私達は

政友會の政策を曝露すると同樣の熱心さをもつて、民政黨の政策を、即ち、如何なる意圖の上に立つて、如何なる方法によつてゐるかを曝露し、大衆の味方は政友會にも民政黨にもあらざる事をはつきりと知らしむる事が必要がある。民政黨は野黨なるが故に政府黨と戰ふ必要上、亦實現上の責任を當面の問題としてもつてゐないので極めて、無產者に好意あるもの、如き口吻をもらすが故に、私達は民政黨の曝露を必要とする。

　私は、民政黨の政策の曝露が不活潑である事を痛切に感じてゐるから、この一文を草した。しかし、私達は、民政黨の野黨的態度を利用して、政友會内閣への戰術とせねばならないだらうが、それと、前者とは全然別個の問題である。（伸庭）

試驗地獄か？
生活地獄か？

　所謂「入學試驗地獄」の弊害を除去する事は教育家、政治家の多年の懸案であつたが、最近文部省は其の改正案を出した。そして、その在學校の校長の口一つに其の入學や否やの運命が決せらるゝ事になつた。

　從來の「一試驗制度」においても、ブルヂョアジイの子供が、非常に有利な立場にあつた事からおしても、これからの試驗がブルヂョアジイの子供に如何に滿足と歡喜を與へるかと想像されてくる。小學校長や、小學教員が、如何に其の村の村長や金持の御機嫌を伺つてゐるかは、何人も知つて居る所である。一度、それらの人々の指彈に會へば長く其の村に止まる事は出來ない、されば、校長はブルヂョアジィの子供を推薦せざるを得ない間接的な强制を受くるであらうと思はれる。從來の試驗制度が、暗記主義、詰込主義で、教育上にも、體育上にも弊害の多いものであつて、伸びんとする少年をいたましくも苦しめるものであつた。が、今度の改正によつて、試驗の廢止が大體において決定され、小學校長の內申が重要なものになつてくると、必ずや其處に猛烈な父兄の運動がおこり、新地獄が展開するのではなからうか。從來の試驗制度が子供を地獄の憂き目に會はせたのであるが、改正後は小學校教員や、校長を犧牲の地獄に落しめるものではなからうか。その結果、教育の振興の爲めの改正案が反つて教育上大弊害を與へ子供や一般民に大影響を受けしめるかも知れぬ。

　一般大衆は之に向つて監視の目を怠つてはならない。

　入學の問題がかくも喧しき世論となつてゐる時、中學校入學等は思ひも寄らぬ小作人の子や、勞働者の子は行方に何がまち受けてゐるであらうか。友達がやれ入學地獄と苦しんでゐる時、彼等には入學地獄とは似ても似つかぬ生活地獄がまち受けてゐる。

　入學地獄が伸びて行く子供に大弊害を與へる理由で世の中の敎育家や政治家が同情し[illegible]その改正を叫んでゐる時、生活地獄の中へ足を踏み出さねばならぬ子供達にどの敎育家が[illegible]、どの政治家が其の悲慘な境遇を改造しようと企てたか。ブルヂョアの子供や小ブルヂョアの子供達を入學地獄から助け出さうと叫ばれても、入學地獄以上に苦しい生活地獄をもがいてゐるプロレタリヤの子供達をその地獄から助け樣とはしない。

　入學試驗は廢止され、入學が樂になつたが、プロレタリヤの子供にはそれは餘りにかけ離れた世界である。小學校を出るとすぐもう食ふ事に苦しまねばならない。生活地獄に苦しむ子供の増加は、資本家のねらう所となつて、少年勞働者を採用せんとしてゐる。それが、資本家にとつては賃銀は安いし從順である爲め好都合である事は勿論である、それは一方成年勞働者を脅威する。失業の危險、賃銀低下、等々を見よ。帝國主義への突進過程は、其處に洵に恐ろしき全國を襲ふ失業の嵐をふき起した。

　農村においては全國を襲ふ立入禁止の嵐によつて、祖先傳來の田は取上げられ、農民一家の生活の道は斷たれて來た。米を作るべき農民が土地をもたない、土地を使用する事が出來ない。

　都會も、[illegible]賃銀低下の[illegible]嵐によつて、男も女も子供も生活地獄へもがき乍ら、後から後から落ちこんで行く。

　同じ地獄でも、入學地獄の方に、何と[illegible]事よ。而も、[illegible]道は閉止されんとしてゐる。然るに、プロレタリヤの地獄には一寸先の闇の如く、食ふか食はぬかのいたましいもがきが充滿してゐるではないか。

　プロレタリヤがこうして、生活地獄に苦しんでゐる時においても試驗地獄の改正者階級は、或は生存權を壓迫し、××資本家の爲に八億圓にも餘る負擔をしぼり取るではないか。吾々はこの生活地獄からたゞ階級としてのみ離れる事が出來るのである。

　試驗地獄も大きい問題たるを失はない、[illegible]大きな口を開けてゐる。[illegible]込んで行く事は、[illegible]大きな問題である。前者はパンの上のバタの良否であるが、後者はパンの自然の上にかゝはる問題である。農民の子も勞働者の子も小學校を出るや否やこの地獄の中へ落ちて行く。

（神庭）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

原法相の死刑事務簡捷と サッコ・ヴァン、ゼッチの死刑問題

布施辰治

一

鋭い良心の光で現代社會を見つむる者には、一行の新聞報道中にも生命をかけて戰はなければならない問題が發見せられる。又、實際、一行のニュースに無産大衆の生命がかけられてゐる事も少くない。彼のサッコ、ヴァンゼッチ死刑執行反對運動記事の如きに、正に、其の適例だつたと思ふ。資本主義萬能、協調組合全盛の米國に七十五万人を擁する死刑執行反對運動が行はれたと云ふことを聞いた丈けでも、その運動が、無産階級運動戰線に立つ者の上に、やがて襲ひかゝり來るであらう、支配階級の兇暴なる彈壓を豫感した命にかけての戰ひであつたと云ふことを感ぜしめられるであらう。と同時に、田中反動内閣の無産階級暴壓政治下にある私共の上にも、何時如何なる法律的權力的○○○○のクーデタ！が司法權の名によつて加へられるかも知れぬことを覺悟させられたであらう。

斯ふした際のニュースとしては、マコトに故意か偶然か、東日、八月○日の『餘鏡』に『死刑囚と司法大臣の話』と云ふ次の如き一文が報導せられた。

『原法相は死刑執行の決定文書に遲疑な、ハンコを押すので事務がはかどると省内での評判だ。由來死刑といふのは最終判決が濟んでから司法大臣のハンコをもらへば五日にして刑場の露と消えてしまふことになつてゐる。ところが、そのハンコを中々押さないものだ。横田法相然り、決裁書をもつて行くと『まア、も三四日待て』といつたものだ。小川法相然り『可哀さうだも一週間待つてくれ』江木法相が大臣になりたてに廿一になる死刑囚の決裁を乞ひに行つたら『まだ子供ぢやないか可哀さうだ、も四五日待つてくれ』といつた。斯くの如くにして大概の死刑囚は判決確定から一年位生きのびることになるのが例だ。それでもなかなか決裁にならないと、刑事局長あたりが一件書類を大臣のところへもつて行く。そしてよく兇状を説明すると大臣ははじめて納得してハンコを押すのが例だが、そこは原法相、永年の辯護士生活で、よくのみこんでゐるのだらう。兎に角死刑の事務簡捷、原氏によつて全し。』

私は、これを讀んで、實に愕然たらざるをえないものがある。

二

反動軍事内閣の無産階級運動に對する彈壓方針と、私共無産者の解放運動に燃ゆる熱意とは絶對に一致する筈がないのだから、彼等が如何なる暴壓を私共に加へやうと、如何に人間××の死刑執行に『事務簡捷』方針を立てやうと、それは彼等の勝手次第であつて、私共はたゞ私共の道を勇敢に戰ひつゝその進路を妨ぐる一切のものを突破して進むのみである事は勿論だ。

だが、全人類同胞に取つて、死刑と云ふものが、如何に悲慘なものであるか？と云ふことは、之を明かにしてをきたい。

そして又、官僚出身の司法大臣でさへも躊躇すると云ふ死刑執行認可の捺印を、辯護士出身の原法相が、何の造作もなくやつてのける、と云ふことを以て、それが辯護士としての修養に訓練せられた者當然の死刑觀でゞもあるが如く思つて居る人とに對して、所謂辯護士出身法相死刑事務簡捷の迷妄を指摘して置きたい。

海江田事件當時の昔を知り、亦、現に國本社の最も有力な後援者である事を知つて居る者は何人も肯くであらう如く、彼原嘉道氏の如何なる人であるかは大體見當が付くであらうが、それは反動軍事内閣田中首相の知遇に感激して一諾のもとに法相となつたことでも知れやう。かくの如き彼れにどうして眞の辯護士としての死刑觀があり得ようぞ。

辯護士の職務と使命は、弱きを助けて強きを挫く義人の業だ。助からぬまでも助けやうとし、助けえずんば支配階級の×の下に共に斃れても、と云ふ氣に生きる者の業だ。かゝる義人俠士を以て―また階級鬪爭の戰士を以て自ら任じ、又さう信頼されて、一般弱者―被支配階級のために鬪ふ、辯護士の天職に訓練せられた者の死刑觀は、死刑執行事務の簡捷をはかる原嘉道氏のそれの如きものでは、斷じてないのだ。

しかも何たる時の皮肉であらう―サッコ、ヴァンゼッチの死刑執行反對運動は全世界を衝動して居る其の時に我が反動田中内閣の司法大臣原嘉道氏が、東日の餘錄で死刑執行事務簡捷の禮讚を受けやうとは！

サッコ、ヴァンセッチの死刑執行反對運動は何故に起されたのか、又、彼等は讎々たる死刑執行反對運動の中にどうして虐殺せられたのか、私はその問題に就て、特殊な司法權的○○○○○

を後に説くであらうが、先づ静かに、死刑執行官僚出身の司法大臣でさへも死刑執行認可の捺印を躊躇するのは何故か、と云ふことから説いてみたい。

三

申すまでもなく、私は絶対的死刑廃止論者である、従つて、死刑廃止論の人道的、法律的、絶対的根拠に就いて語るべき多くの材料を持つて居るつもりであるが、こゝでは官僚出身の司法大臣でさへも、死刑執行認可の捺印を躊躇すると云ふ人間感情のみに就て語らう。

死刑囚にとつて最も悲惨なことは何にかと云へば生き乍らその生を奪はれることである。どんなに惨忍な虐殺を受けた者でも、いよいよ虐殺せらるゝまでは、その逃げえらるゝ限りは、逃げやうとする。而して、そのつひに逃げうせぬと云ふことを自覚する時と、虐殺せらるゝ時とが同じ時であるだけに、いよいよ虐殺せらるゝまでは逃げうせやうとする生の希望を持ちつゞけることが出来る。けれども、死刑囚のみはさう行かない。死刑の執行から逃げうせやうと云ふ希望は、すでに死刑執行前死刑の確定と共に奪はれてしまうのである。

と云ふと、或る人は、死刑囚にも脱獄があるとか、或は誰れかゞ奪還してくれるであらうと云ふ希望を持ち得るではないか、とか言ふかも知れぬ。又、時には何等かの大事大故に赦免の希望を持ちえない事もない、と言ふだらう。

いかにも、さうした事はあり得る。が、併し、それは決して生に於ける直接の希望ではない。脱獄奪還赦免等々の事があつたら、死刑を脱れる事が出来るかもしれない、と云ふ生に対する間接の希望たるにすぎない。否、むしろ、さうした死刑囚の心境を適切に言へば、それは生に対する絶望を前提とした一種の死刑××の希望であつて、所謂生に対する希望そのものではない。こゝに生きとし生ける者が執着する生への希望を――生それ肉体である生命を不自然に破壊せむとする死刑の惨忍さがあるのである。

私は、かうした死刑を、心から憎み呪ふ、死刑絶対廃止を叫んで止まない。

が、併し乍ら、強権を體とし専断を用とする現代の帝国主義、官僚裁判に於ては、到底死刑の廃されやう筈はないのだ。人道主義的見地からの自由主義的運動によつて、一度廃止せられた惨忍なる死刑方法をさへも、資本主義的帝国主義崩壊の断末魔に及んで、之を復活せしめやうとして居るのだから。

されば、私は、今日の帝国主義的国家に、死刑の廃止を哀願嘆願するが如き運動には、寧ろ、反対だ。死刑なるものが、いかに惨忍なものであり、人類社会に存置せしむべからざるものであるかを認識して、心から之を撤廃せむと欲する者は、たゞに死刑の存置を望まぬと叫ぶのみでなく、死刑――××階級の手によつて行はるゝ、被支配階級○○――存置を必然且つ必要ならしめて居る資本主義的帝国主義の官僚裁判そのものゝ存置を××するだけの勇躍に生きねばならないと信ずる。

四

以上私の述べて来たことは、人間社会今日までの歴史に於て最も正しいとせられた有罪必罰の原理から見た死刑でさへも、如何に其の不合理且つ惨忍なものであるか、と云ふ主張である。

だが、今は、目には目を、耳には耳を、そして生命には生命を――以て報いよ、と云ふ有罪必罰を原理とする應報主義の野蛮は、私等の人間社会に一個の不幸があれば、さらに一個の不幸を作り増さむとするのだ。と云ふ事丈けでもその誤つて居ることの甚だ明白な程、死刑は惨忍なものなのである。

況んや、何等の罪なくして、かくの如き死刑の惨虐に泣かしめらるゝ者があるとしたら、鋭い良心を持つてゐる私共は、どうして、これを黙つて見て居られやうか？

是れも、神ならざる裁判官の不明によつて、寃罪者を有罪にしたと云ふ事だけであるならば、私共はその有罪者の死刑を哀れむ死刑防止運動に、私共の責任を果し了へ得るであらう。けれども、はじめから死刑に相当する罪ありや否やを判断することの出来ぬ裁判官が、僣上にも人を裁いて罪なきに罪するの不法に対しては、たゞその可憐な死刑囚のために死刑執行を防止したのみでは足りない。かゝる不法を二度三度くり返すの危険なからしむるために、彼等司法官が、さうした不法を敢て為しえないやうに、××そのものを××しなければならない絶対的死刑廃止論があるのだ。

さらに、況んや、かゝる惨忍な死刑が所謂――赤狩り――と云ふやうな、支配階級の意識的計劃的に依つて罪なき民衆に××せらるゝに於てをやだ。私共は、かくの如き支配階級の○○○○○○○に対しては、断乎として抗争しなければならない。

私は、この最後の場合の例として、××に××に幾多の實例のあることを聞いて居る。

だが、こゝでは、むしろ、米国に於て伊太利の無政府主義者サッコ及びヴアンゼッチが、どうして死刑の宣告を受けたか、又、どうしてその死刑反対運動があれだけの輿論を喚起したのかを語る方が便宜であらうと思ふ。

五

サッコ及ヴアンセッチの公判記録によつて示されたところによれば――一九二〇年四月十五日、サッコ及ヴアンセッチは、マサチウーセッツ洲の南ブレントリ市に於て、スレーター、エンド、モリル靴工場の会計主任フレデリキパーメレター及び会計課看視人アレキサ

ンダー、ペラルデリーを射殺し、一万五千七百七十七ドルの支配金を強奪したと云ふのである。

けれども、その日時にサッコもヴァンセッチも、その現場にゐなかつた、と云ふ確實な證人が廿人も出て居る。殊にその證據中には領事館の公文證明さへもあつたのである。にもかゝはらず、靴工場の會計主任と會計看視人が白晝射殺され――大金を強奪されたと云ふ大事件があつてから後、まさに廿日の五月五日に至るまで未だ犯人檢擧の捜査方針を定めえず警察無能の非難の中に周章狼狽しつゝあつた當局は、その日資本主義的帝國主義の無産階級運動彈壓政策として實施した、所謂「赤狩り」に於て、問題の射殺強奪事件とは何等の關係もなく檢擧したサッコ及ヴァンセッチに、嫌疑すべき何ものもなかりしが故に、今度は彼等を否應なしに射殺強奪事件の犯人として拵へ上げ、これを公判に附すに至つたのだと云ふ事である。

かくの如き事實を述べても、はじめて裁判と云ふものを聞く人々は、それは、あまりにもひどいことで、到底信じえないと云ふかもしれぬ、が、私の職務實際に取扱つた事件で、さうした實例は決して絶無でない。その際のニセ證據を拵へ上げるために、警察にはスパイがあり、證據立會人があり、見なくとも見たと言ひ聞かずとも聞いたと云ふ御用證人がある。それのみではない。警察官憲は、このニセ證據を承諾せしむべく努力を以てまで、心にもなき自白を強制する事がある。かのサッコ、ヴァンセッチ等さへも隨分ひどい自白強要の拷問にかけられたと云ふのであるから、氣の弱い者は――否、かなりに氣丈な者でも、拷問のために犯さぬ罪をも犯したと言はざるをえなくなり、かくして自らの墓穴を堀らしめらるゝのだ。それは、かくれもない且つ決して少からざる事實である。

併し乍ら、サッコやヴァンセッチの様に、どんなひどい自白強要の拷問を受けても自白などしない者が、どうして身に覺えのない無實を立證しえないのか？ 疑ふ人もあらう、勿論彼等では有利な證言をいくらでも提供したであらう。だが、いくら利益の證據を提供しても、司法官憲は、これを採用しないのだ。現に、彼等の公判記錄にすら、もつとも有力な證人が採用せられなかつたと云ふことが書いてある。そこに、一度射たむとしたものは必ず狙ひ射つ司法官憲の〇〇〇〇〇があるのだ。

私の知つてる事件に於て、有罪の御用證據と、量に於ても質に於ても、比較にならない程多くの反證據（無罪の證據）とがあつた場合――例へば、被告の肉筆なりとする不利益文書の不利益鑑定が一つで、異筆なりとする利益の鑑定が三つあつた場合、自由心證主義と稱する獨斷を許されて居る官憲裁判官は、その一つの不利益證據を採つて、三つの利益證據を付けても適法とせられて居るのである。さらに、又、不利益證據が一つ出來て居て被告を有罪になし得るとすれば、その有罪證據を覆へされるやうな反證（利益證據）は、之を申し出でゝも極力之を許可すまいとして居るのである。フランスの有名な「政治罪惡論」の著者ルイ、プロールは、かう言つて居る、――「裁判官の判斷は、毒よりも恐ろしく針よりも強し殊にそれが政治上の敵に對する時に於ては、さらに然り。」と、資本主義帝國主義的國家の支配階級にとつて、無産階級はまさに最大且つ唯一の強力な「政治上の敵」なのだ。サッコ、ヴァンセッチに對する死刑の判決の如きは、實にその適例であらう。

六

扨て、然らば、私共は斯ふした〇〇〇〇〇〇〇――支配階級によつて爲さる被支配階級〇〇としての死刑判決に對し、如何に抗議し如何に戰ふべきであらうか。

支配階級の兇暴に對して、七年の間戰ひ續けたサッコとヴァンセッチも、遂に死刑に處せられた。全世界を擧げての死刑執行抗議運動も直接的には、その效なくして、彼等には、電氣死刑の慘殺が加へられた。私共は、たゞ徒らに死刑は惡いものだから廢止せよ、死刑は慘忍だから抗議せよと叫んで此の文を結びえられやうか。――否、斷じて否。

サッコは法廷最後の言葉として言つた。――「社會運動殉教者列傳の中に、無名の私の名を列し得ることを無上の光榮として、私は死刑を受けるであらう」と。

曾て、彼のガンヂーが、最後審判の日に裁判官の有する自由は、余を裁判する職務を抛てるか、余を有罪にするかの二つのみである。哀れむべき裁判官よ。と言つたことを私は記憶して居るが、囚はれて敵の前に立つたサッコもガンヂーも、彼等自身として言ひ得るだけのことを言つて居る。彼等は、自分の直面した裁判官をも、壓倒したのだ。だが、私共は、その言葉の響をたゞ彼等のみの言葉として終らしむることが出來るだらうか。

彼等は、たしかに、彼等の言葉を口から大衆へ一人より二人へと全世界の同志が之をうけて高鳴りさせてくれるであらう事を信じて居る。私共は、それに應ずることなくして、之を聞き流しにすることは出來ない。資本主義斷末魔の崖に立つ帝國主義的××××は、私共の解放運動が白熱すれば白熱するだけ、丁度サッコ、ヴァンセッチの死刑反對運動が猛烈になればなるだけ、彼等は勇を鼓して反動的兇暴な死刑を執行したと同じやうに、いよいよ烈しき昂奮に燃えて、反動的彈壓を重ね來るであらう。私共は、さうした時に、何を考へるか。けだし、その時の勝敗を決するものは×だ！ ×の強きものが勝つのは、鬪爭の原則である。（十六頁三段目に續く）

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會民衆黨の社會的根據と其の行方

佐藤護郎

一

社會民衆黨は左の如き發展過程を經て現在に及んでゐる。

一、勤勞階級全體として資本主義的法律制度及び有産階級的財政政策によりて不利益なる待遇を國家から強制せられてゐる。從つて經濟行動を徹底する爲にも又無産階級的法律制度及び財政政策を強行する爲にも、無産階級は宜しく政治行動に出でて、國家の機關たる立法議會及び行政官廳に於て絶對多數の支配力を設定しなければならぬ(立黨前の經過)

二、既成政黨は國民の信望を失つてゐる。今や民衆を基礎とする健實なる新政黨の出現は當然の趨勢なりと考へる(三博士の勸誘狀より)

三、議會政治に依つて資本主義による社會制度の改革を計るにある。(安部氏の演說の中より)

四、(イ)吾等は勤勞階級本位の政治經濟制度を建設する事を以て健全なる國民生活を樹立する所以と確信し之が實現を期す。(ロ)吾等は資本主義の生産並に分配方法に健全なる國民生活を阻害するものありと認め合法的手段に依つて之が改革を期す。(ハ)吾等は特權階級を代表する既成政黨並に社會進化の過程を無視する急進主義の政黨を排す(綱領)

二

第一の過程に於ては全然社會的根據を發見することが出來ない。たゞ「財政政策を強行するためにも」のもの中にアイマイなナゾがかくされてゐるが、併しこれは社會的根據のナゾではなく普選施行に就いての所謂鈴木文治氏の『二十年來の宿望成り』の野望的根據がふくまれてゐるものとする方が安當である。

三

漸く彼等の社會的根據が具像化してきたのは第二、第三の過程に於てである。それを說明して安部磯雄氏は「議會政治に依つて資本主義による社會制度の改革を計るにある」とある。この點明かに社會的根據を民主主義の上に發見してゐるのである。

四

更に民主主義の根據を、或は勤勞階級となし、國民となしてゐる。而して彼等は勤勞階級の當然の行方を國民の上に求めてゐるのは明かとなつた。同時に彼等は勤勞階級の存在を無産階級の社會的根據の上に發見することなしに、むしろ、階級否定の根據に立つて危ふい發見を發見しやうとしてゐるのである。こゝに彼等の稱する「勤勞階級」の僞瞞がある。と共に、政黨的根據を托せんと欲する民主主義的意義もブルジョア民主主義を一歩も出でざるものである事を發見する。これに依つて第四の社會民衆黨の綱領の本領が愈々益々明かになつて來るわけである。

五

以上の事由に依り、社會民衆黨の本質は當然ブルジョア民主主義に歸決せらるゝ、が併し、資本主義の急進なる行詰りに當面せるブルジョア黨の急進派は、更に進歩的な見解より、既成ブルジョア黨への抗議及び憲法の改正を要求してその進路を打開せんとしてゐる。そして、同時に完全なるブルジョア民主主義を確立して行詰れる資本主義の轉化を企ててゐる。この傾向と社會民衆黨の發展的經過とは判然に合流する根據を有してゐる。

六

併し、彼等が更に如何なる方向轉換の過程を過程するかは、今日迄に於ける彼等の政策の中には現はれて來ないが、彼等の社會的認識(日本の資本主義情勢に對する認識)が全く誤つて認識する限りに於て從來の政綱政策を變更する必要を感じないが、その誤りをよく認識した場合に於て彼等の政綱、政策の上に根本的な破綻を生ずる。その時、彼等はその破綻を如何に彌縫せんとするか、又は如何に方向を轉換せんとするか、が問題として殘される。

七

其時期は、彼等が危く結合し來たれる勤勞階級(彼等が無産階級意識の中に發見せんとするところの)──實は無産階級意識とは相違するところの──と全く絶縁を宣言する時期である。但しはその絶縁をおしんで大資本への明確な××及び資本主義末期の×××××の××を志指する時期である。(彼等のファスシズム傾向はこゝは表はされる。)

無産階級的意識を國民意識まで引下げんとする努力は無駄な場合に於て、無産階級との絶縁を宣言してブルジョア民主主義に逃げ入るか、但しは彼等の認識し、彼等の率ゆる勤勞階級を利用指導してファスシズム××へ迄に發驅し得るか、所謂彼等の方向轉換過程を運命づける二つの宿題である。即ち我等が社會民衆黨の行方を豫見し、警成の鍵を全無産大衆の中へ亂打する重要なる根據である。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

ブルヂヨア、デモクラシーに就いて

羽田光雄

一

諸君はかの史上で名高い、産業革命といふ事をよく御存知の事と思ひます。産業革命は封建制度より資本主義への分岐點であつた。手工業の大工業による征服、殖民地の發見世界的通商への飛躍、貴族、僧侶等に反抗するブルヂヨアジイの出現を、それは結果としてもたらしました。私はこの論旨を進めて行く上に必要な、封建的階級とブルヂヨアジイの對抗を主としてとらへて行きます。勿論この階級上の變化や、闘爭は、その基礎を社會の經濟的關係と連關してゐるのでありますから、さうした基礎的な事項を眞先きに說明して行かねばなりませんが、この問題はすでにあらゆる機會に書きつくされてゐるのでありますからただ階級上の闘爭を問題とする。

産業革命によつて勃發して來たブルヂヨアジイは封建的勢力に向つて激しい闘爭を開始したのです。その時は、ブルヂヨアジイが、自分こそ社會正義を確立するものだといふ宗教的感激にひたつてゐた。彼等は資本家的生産の發展を策する上からして、偏狹な封建的支配と正面衝突しました。社會的必然がさうする事を餘儀なくせしめたのです。花々しく自由の爲めに、今迄、貴族や其の他の權力階級に踏み躙られてゐた自由の爲めに戰ひ來た。言論の自由、宗教の自由、選擧權の確立、人格の獨立、職業の自由等々の爲めに。即ち、資本主義は自由主義を基調として成立しただけあつて、ブルヂヨアはデモクラシイの爲めに封建階級と戰ひました。當時のブルジョアは自身云ふ如く社會で最も必要とする新興階級だつたのです。ブルヂヨアジイは一般民衆を自分の味方とした。そして、その先頭に立つて奮闘しました。何故、民衆はブルヂヨアジイの傘下に集まつたかといふにブルヂヨアジイは、封建制度の下に苦悶して行詰つてゐた生産を、新らしく解放し、生産の進歩を促す社會組織を實現する社會の爲めになくてはならぬ革命的階級だつたからです。民衆はこのブルヂヨアの庇護の下に貴族や王侯の虐使や、動物のあつかひから逃れ、人間としての自由の一歩を踏み出す事を得たからです。ブルヂヨア革命は國民の支持がなくては出來なかつたのです。しかし、資本主義は決して民衆の自由を確立し得ないのは、諸君親しく知らるゝ所であらうが、その時代においては、大衆は封建的勢力の下から逃れ出づる爲めに、ブルヂヨアジイの傘下に參集する事は必然的な歷史的な運命であつた。

ブルヂヨア革命はこうして、代議制度を布き、選擧權の確立、國政への參加の道を開いて來たのです。即ち、ブルヂヨア、デモクラシイが不完全ながらも、次第に獲得された譯です、專制主義への絶へざる戰ひの中に、されば、ブルヂヨアの勢力の盛んなる過程、その革命的役割を果したのです。

ブルヂヨアジイの封建的制度の克服によつて擴張し、進展して來た資本家的生産は、プロレタリヤ階級の出現を生んで來た。それは封建制度がブルヂヨアジイの出現を不可避づけたと同樣に資本家的生産の必然性から出現したのです。そして、プロレタリヤ生産の集中、富の蓄積は反つて、自分達の生存權を脅威すると感じ初めて來た。こゝに、資本主義に對する社會主義思想が次第に擡頭して來、而も日に月に擴大愈々科學的に、愈々實際的になつて行くのです。かくして、かつては花々しい革命的役割を果したブルヂヨアジイは、自らの地位を保たんとして、理論的には、資本家的生産の永遠性を立證しようとし、實際上においてはこの新興運動をあらゆる手段を用ひても壓迫しようとして來たのです。嘗ての革命階級は今や反動階級へ嘗ての新興の階級は今や特勢力の巢窟となりました。彼等はかつての樣に大衆の自由の爲めに先頭に立つて進む樣な勇氣は微塵もありません。反つて、大衆から今度は逆に自由を奪はんとする態度に出ます。而も、それは野蠻的な勇猛を振つて。彼等はつい先程迄戰つて散々つぱら打散らした封建勢力と妥協してプロレタリヤの進出に具へて來たのです。資本主義なる鐵壁は、如何なる者でも突破るを許さないといふ偉い意氣込みで。そうして、こゝに專制主義、帝國主義ブルヂヨア、對勞働者農民階級の階級闘爭は尖鋭化して行くのです。

二

日本へ資本主義が流れ込んで來たのは、せいぜい五十年程昔の事に過ぎません。明治維新といふのが即ちそれです。徳川幕府が倒れて、諸外國との交渉が初まつた。ですから、日本の資本主義の成立は外國に比較して遙かに後れてゐるのです。その結果、ブルヂヨアジイは封建階級と徹底的に爭ふ時代が短かつたのです。語を換へて云へば日本の資本家的生産の（すでに反動期に入つた世界資本主義の流れに合流する。）必然的動きは、ブルヂヨアジイにそのデモクラシイ獲得の戰ひを果しつくさせぬ中に、封建的階級と妥協せしめ、資本家的生産を育成するプロレタリヤと對抗しなければならなかつた

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

のである。それは、日本のみの出來事ではなくして、世界の動き―日本の現象を決定したのです。世界資本主義に後ればせ作ら、合流した日本は、世界の資本主義が反動の時代へ―即ち帝國主義の時代へ―突入すると同時に、否でも應でも自らも同じい色に染められざるを得なかつたのであります。其の爲め、日本のブルヂョアジイは、僅に二三十年位の間しか、民衆の先頭に立つて、藩閥政府の横暴を罵り民權の自由の爲め抗爭したのみで、つひに、あわたゞしくも封建的階級と妥協し、ブルヂョア・デモクラシイを獲得せんとする、戰線を拋棄して、逆に大衆の政治的自由を奪はんとしたのである。言論、民衆の政治的自由、即ち普通選擧、言論、結社の自由等は、ブルヂョアによつてこの世の中に實現されるべきものであつた。そうであるから、資本主義の早くより發達した國においては、こうしたブルヂョア・デモクラシイが實現してゐる。勿論、國々によつて、即ちブルヂョア勢力の大小によつて程度の差はあるが、日本においても曲りなりにも普選は實施されてゐる。しかしそれが、いやいや作ら人氣取り.になされたものであるから、半面において新興勢力の勃興せんとするのを防害する爲めに、治安維持法等の如き惡法を出してゐる。普選そのものも、妙に制限的なものである。之は後で述べて行くつもりであるから省略しておくが、その他集合の自由も、言論の自由も極度に壓迫されてゐる。こうした反動政治はブルヂョアと專制主義のより密着な結合がもたらされると共に日一日と激しくなつて行く。即ち、資本主義組織の帝國主義への進出がさうさせて行くのであります。

最近、プロレタリヤの間に、こうして社會法則に影響されて、ブルヂョアが放棄して了つたブルヂョア、デモクラシイを戰ひ取り實現させねばならないといふ叫びがあがり初めた。事實において、政治的自由、特階級の××の××の叫びは實際運動の主軸となつた。しかし、それは、もうブルヂョアによつて實現されるものではなくなつた今日、之を獲得するものは勞働階級をおいて外にはないのであります。勞働階級はその爲めに、農民や、小市民を陣營に引寄せねばならぬ。彼等はこの資本主義の政治下においては、極度に貧困と壓迫を蒙つてゐるのであつて、自らの利益を、プロレタリヤの利益と共である事を意識してゐる階級である。

小ブルヂョアもこの闘爭に參加してくる。何故なれば、この階級は、專制主義的勢力と、帝國主義的ブルヂョアの妥協合體による獨占時代、金融寡頭政治の實現によつて、著るしく自らの地位の狭められて行く事を感じ初めた階級である。プロレタリヤはこの小ブルヂョアの壁を利用し、誘導して共に立つてブルヂョアデモクラシイの戰線を展開しなければならない。しかし、このプロレタリヤの闘爭は、小ブルヂョアの要求と眞實に融合する事ではなくして、彼等と一時的、當面的に、利用して、而してその運動の有利なる促進を企てるのです。何故ならば、プロレタリヤのブルヂョア、デモクラシイ要求の理由と、小ブルヂョアのそれへの動機とは全然違ふからであります。小ブルヂョアの求むる政治的自由は、それ自身が終始の目的となつてゐるに反して、プロレタリヤのそれは、プロレタリヤ解放の一歷史的段階として××的に要求するのである。それを最終目的とするものではないのである。限界のあるもの、即ち自らの階級のより高き目標を獲得する爲めの武器としてのみ要求するのである。

否々プロレタリヤは明確な指導の下に集まらねば、自らを解放する事は出來得ないのです。勞働者は結合する以外に貧困と戰ふ手段は有得ない。政治的自由なければ數百万の人民が結合する可能性はないのです、政治的自由はすぐプロレタリヤを解放にまで導く事はなし得ない。しかし、それへの有力な絶對的に必要な武器となるのです。されば、プロレタリヤと、小ブルヂョアの共同戰線は明かな相違ある運動目標と運動目標との一時的の連絡である事を知らなければなりません。

さて、このブルヂョア、デモクラシイ獲得の爲めの戰線の主力となり、前衛となるものは、プロレタリヤを除外しては得られない。何故なら、この運動は、前に屢々述べた通り、より高き目標の獲得の爲めにのみなさるゝものであり、その最高の目標の獲得はプロレタリヤによつてのみ行はれるからであります、勿論、農民はプロレタリヤと同じき理想欲求をもつてゐるが、何と云つても、この世の中が資本主義的經濟組織である以上、決定的な役割はプロレタリヤにあるのです。このプロレタリヤの歷史的役割を促進せしめ、支持しその成功を圖る爲めのは、農民の積極的任務であり、自らの解放はかくして實現されるでありませう。ブルヂョア、デモクラシイは、ブルヂョアの實現せねばならぬから、現在これを求めてゐる小ブルヂョア階級の努力を主としなければならぬといふ考へ方は誤りである。少くとも歷史的狀勢に無關心な人のいふ事です。プロレタリヤは、ブルヂョア、デモクラシイ自體を目的とするものではないから、それ自體を終局目的とする小ブルヂョアに積極的任務を與へる事は出來ない。反つて、小ブルヂョアのこの關心を利用し指導し、而して實現させねばならぬのであります。現在吾々の要求するブルヂョア、デモクラシイは、プロレタリヤ、デモクラシイと紙一重の隣りに位するものであり、プロレタリヤ及び農民の努力は、前者を獲得し、足場として後者へと急速に足を踏み入れるでありませう。

プロレタリヤによるブルヂョア、デモクラシイの獲得は、プロレタリヤ××の序幕となる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

三

私達が選擧權の擴張(女子を含む)言論、出版、上演、結社、信教等々の自由を要求し、ブルヂョア、デモクラシイの確立の戰ひを爲さんとする時に際して、嘗ては自ら戰はねばならぬその運動に於て、今は其の機能を失ひ其の歴史的任務を忘却した帝國主義ブルヂョアは、封建勢力と野合して、今や斷然たる斷壓に出た。彼等は、このプロレタリヤを前衛とするブルヂョア、デモクラシイの發展に云ふべからざる脅威を感じ、それを阻害する事によつて、プロレタリヤの××的役割を不可能ならしめ、抹殺せんと考へたのであります。故にこの政治的自由要求の戰ひにおける敵の主力は反動主義者、卽ち、專制勢力(軍閥、官僚、貴族、大地主等)であり、帝國主義的ブルヂョア(政黨)の上に君臨する、獨占的少數の資本閥(政黨)であります。

政友會內閣の發現政治は讀者親しく見られる通りである。政友會は專制主義勢力を最も多分に抱合する政黨であります。思想的新聞雜誌の發禁政策、機關紙への徹底的取締りや、言論、集會、プロ演藝の禁止等に其の片鱗が見られる。かくの如く政友會內閣はプロレタリヤの政治的自由を奪ひつゝある時に皮肉にも、普通選擧は近づいたのであります。この普選も最も制限的なものでありその上に治安維持法を一方に出した程の性質を附與されたものでありますが、兎に角、何と云つても、從來の三百万の選擧權者に比して約四倍の千三百万に增加したに徵しても大なる進步に違ひなかつた。プロレタリヤの戰衛が、その相手が、ブルヂョアによつて出來たものにもせよ、支配階級への突貫するに最も都合のいゝ、卽ち弱い一環に、侵入し易い個所へ突擊を企てゝ行くを必要とする限り今度の普選は好個の鬪爭舞臺であらねばならぬ。ある人々は、こうした政治的鬪爭への進出は(勿論、それは普選のみでなくより擴いものである)害あつて益なしと叫んではゐるが、それは誤謬であつて、卽ち、前述の如き事態を究明する事の出來なかつた結果でありませう。

大衆の政治的自由を奪はんと企てゝゐる政友會內閣が、ブルヂョア、デモクラシイの一環を爲す普選に直面して如何なる方策を採るであらうか。恐らく大衆の政治的自由を奪はんとする干渉政策をとり、卽ち、選擧權の干渉、言論の壓迫、文書の禁止、その他種々なる反動振りを示す事でありませう。

支配階級にとつては、今やブルヂョア、デモクラシイの要求は恐るべき運動となつた。嘗てはブルヂョアの運動であつたものが、資本家的社會の進展過程は、ブルヂョアジイにこの任務を放棄する事を强要し、遂にブルヂョアジイの敵であつた封建分子(專制主義)と野合させ、そして、今迄ブルヂョアジイによつて獲得した一寸ばかりの政治的自由すらを反つて壓縮せんとさへするに至つた。何故、彼等はそういふ態度を取るに至つたかといふに、プロレタリヤがこの政治的自由を武器として迫りつゝあるからであります。プロレタリヤの增大、その反抗、不滿の極度なる高潮に、何時××するか知れぬ不安なる氣分に、恐れおのゝいたブルヂョアがこのプロレタリヤの進出を妨害せんと企てるのは極めて當然であります。

吾々は、ブルヂョアによつて放棄された戰線を整理し、突進しなければなりません。私達の武器を先づ得なければなりません。

重ねて云ふ。私達の獲得せねばならぬブルヂョア、デモクラシイは、ブルヂョアの要求したそのまゝの意義、任務、使命をもつたものではなくして、實にそれとも全然異つた質的に相異したものである。ブルヂョアによるそれはたゞそれ自身を目的としたものであつたが、(現在吾等の同盟者たる小ブルヂョアはこれと同じい)私達の目的はそれを突破してプロレタリヤ、デモクラシイへの武器として獲得さるゝのであります。私達は精銳なる武器を取つた時初めて戰ひに參加出來、勝利を占める事が出來る。

武器を取る事を忘れて、たゞ××を叫ぶ者は狂人である。

ブルヂョア、デモクラシイは吾勞働階級の當面の鬪爭目標である。國民の政治的自由の獲得、これを阻止せんとする力の中心である貴族特權階級の特權の××

されば吾々は彼等と戰はねばなりません。

選擧權の確立、言論、集會、結社、出版の自由、婦人の政治的權利の確立、官吏公選等のスローガンの下に、あらゆる被壓迫民を動員し、敵と戰はねばなりません。

敵によつて僅かながらも與へられた自由の一部、普選による府縣議選、又來春に迫つた總選擧はこうしたスローガンの下に大衆を引寄せ戰ひ拔くに最も都合のいゝ舞臺であります。

私達は、こうして過去において僅かながらも與へられた政治的自由を利用して徹底的な政治的自由を獲保する。警戒すべきは政友會がこの制限的な普選を尙縮少せんとする取締方針を決定した事である。

私は次號において、政治的運動と組合運動卽ち、經濟行動とこのブルヂョア、デモクラシイの獲得の鬪爭との關係に就いて述べるであらう。

(九月十五日)

附記

この一篇は匆忙の中に書き上げたもので極めて亂雜なものと思ふ。私はこれによつて、現今勞働階級の鬪爭の中心的目標となされたブルヂョア、デモクラシーの歷史的意義が、諸君、研究欲の一端でも刺戟したなら滿足である。この一文は問題の提起以外の何者でもない。

親善の裡に潜む罪業の評價（四）

牛窪愛之進

二、亞片戰爭（續）

——〇江戸の仇を長崎で〇——

茲に阿片戰爭の近因を解剖するに臨んで話は再び過去に遡り悠々たる大豪を自尊し大國の雄姿を誇らかに新興の大國策に當ると見えし英國も煎じ詰むればささやかなる無智と蒙味によつて演ぜられたる小事件を根にもつ私怨の積憤により干戈を動かし多數の同胞を踏み臺に侵略の非望を敢行せるものであつた事を發く。

英國にして若し此の因を以て不當の論據と爲さば吾曹は此の後段に論述す可き林則除の正義的彈壓のみを以て其の近因と爲す可し。さらば英國は人道に立脚したる強硬政策に對し暴力を以て支那の抵抗を封じ支那及支那民衆に熱湯と永敷さめざる毒物を強要したりと斷ぜらる可く。寧ろ通例史家の採らざりし單なる史實を解剖してその近因の一と爲すは英の民衆同志が絶叫せる輿論の前に一の敬意を拂ひて別抉の度を調節したる吾曹の識議である。

紀元一七九二年。未だ厦門以北に列強交易の歩を進め得ざりし時。英國は對支政策の合法的進展を計畫し左の諸項を目標として英支協定を締結せしめんとしてロード、マカトニー（Lord Macartney）を特派大使として倫敦を發して北京に赴かしめた。

一、外商の束縛を解放し其地位の昂上を計る事、

二、厦門以外に廣東其他の諸港を開き交易上の門戸開放に資する事、

三、支那地方官憲の專横を中央朝廷の威令によりて取締り。總て公平なる條約を結びて通商を計る事、

是れ明かに英國が亞片政策の實施に入る前提と見るを得可く特に地方官憲の取締りと云ふが如きを條約的に欲する點なぞは如何に英國が冷靜に而も美辭を設けて政策の轉機に備えて居たかゞ窺はれるではないか。

前來屢々述べたる如く支那地方官憲の專横の原因はこれを左の二樣に觀察する事が出來る。

一、從來交易の列國人が利殖の前には手段を撰ぶ遑なく膝を屈し商事官憲の鼻息を窺ひ賄賂政策を求んじて官憲の自尊心を煽りたる爲

二、支那人の先天的自尊の國民性に

然れど第一の項（前者）は列強各自の自ら播きたる種の芽生えにして之を條約、協定によりて取締るとせば其處に甚だ憤飯にたへざる現象を見る可くいとも理由なき自業を悔ふる能はざる無智を發見す可きものである。然ればとて後者を締むる協定條約の理由を檢し見れば茲には偏見を挾して何事をか爲さざる限り只一片の條約文如きによつて年來の陋習に斧鉞を加ふる如きは到底至難なる事は明かである。さればこそ前掲の如き方針を授けて大使を派遣したる資本英國の腹中は明かに新政策實施に當り所謂瀬踏を爲す、換言すれば實施に要する戰術の詮考を目的としてをつたものである事が明瞭である。

即ち

一、從來採り來つたる賄賂萬能政策を以て進展し行く可きか

二、印度其他の殖民政策に用ひつゝある軍備を以て威脅しつゝ進展し行く可きか

何れにしても英國は最早動かす可からざる阿片政策の實施計畫を基礎として表面は國際友誼通商の親善を標榜僞飾してマカトニーを派遣した事は明かである。

かゝる權術數を胸中に秘めたる、不正手段の露拂ひ使節が、容儀を整いて東漸し來る情景は正しく東洋を腐敗

實際に於ける新戰術の研究

永田繁澄

資本主義はその最後の段階たる帝國主義に入つた。事實資本主義組織は沒落の行程を辿りつゝある。此の時に當り軍閥反動首相田中義一はそのあらゆる機關を通じて新興階級の壓迫——沒落の行程にある資本主義を支ふ可く——一日も尙ほ足らざる有樣である。

見よ!!

頻々たる雜誌の發賣禁止—特に本誌の如きは—、集會の無茶苦茶な暴壓、ストライキに於ける暴虐等々實に數ふる遑なき位である。

斯くの如き時に於て資本家の攻勢は又非常なるものがある。彼等は勞働條件の低下を有らゆる謀策を以て爲さんとしつゝある、近頃爭議の頻發が此の間の事實を物語つて居る。

吾等は斯の如き勞働條件の低下には全力を注いで反對である。吾等は斯の如き時に於ては唯一の戰術たるストライキを以て彼等の謀策を粉碎しつゝある。而うして大成功を收めその殆どは勝利を得つゝある。

然し乍ら回顧する時に於て、成程ストライキは確に有功だ、確に勝利を得る。けれども如何せん小人數の處に於ては必ずや此の戰術が用ひられるものではない。

吾等印刷業は未だ家内工業の如き小

混亂に導く「白禍」の襲來にして、これより清國愈々多事なる可きは何人も首肯し得るものではなからうか。

マカートニー使節は先づ厦門に着し先行の官吏をして書を北京に通ぜしめ次で海路北行するや沿岸諸港の官憲はしきりにこれを歡迎送するにつとめたと云はれてゐる。

茲に於て使節一行は意を甚だ強ふし得意の鼻を高々に會心の笑を含んで大沽(白河の入口)に着き爆竹の歡迎の裡に清廷より派遣されたる接待吏の祝宴に臨んだ。されどこの盛大なる歡迎送は使節一行の意を強ふして大なる英國の命を自負するに足るものに非ずして全然門逐ひの所謂游覽に過ぎなかつた。

果然使節が太沽を發し白河を遡行して天津に向ふや清朝の接待員は使節の座乘船頭に「朝貢旗」を揭げしめ遇するに英國の支那に對する朝貢使の禮を以てした。

使節は内心非常に憤る處あつたが未だ清朝の儀禮、支那の事情に慣熟せざるを以て、溢れんとする激情を包みて相戒めつゝ北京へと乘り込んだ。

北京に於ける歡迎も又儀禮甚だ丁重を極めたるも待遇はあく迄不公平にして目するに對等國の使臣たらしめず。屬國の朝貢使禮遇の範圍を一歩も出る事無く一行の心中には制するも制し得ざる憤滿が燃え立つて來た。

遂に朝見の儀式が行はるに當りマカートニー使節が國書(信任狀)を持して參朝するや。清朝の閣臣は「英國の使節は國書を奉呈に先だちて清帝に叩頭の禮を行ふ可し」と強要した。突如この極端なる侮の申出でにマカートニー色を爲してこれに應答して曰く

「清の高官先づ英帝の畫像に叩頭せよ然らば余も又貴禮に從ふ可し」と要求した。清朝の閣臣忽ち憤激し儀禮の席正に亂れんとしたが。清帝(高宗)之を制し先づ高官をしてマカートニーの申出を實施せしめた爲め一先づ當日謁見の儀禮は滯り無く濟んだ。

然し乍らこの未曾有の出來事に依つて永年維持せる估券を失墜せしめられたる清朝の閣臣はこれより大に使節を怨み國書捧呈後の態度は全く趣きを異にし大なる輕侮の障壁を設けて使節の使命を接踵するを妨害した。

爲めに大英國の名譽にかけて必ず遂行し得るの自信の下に遠く本國に使じたる任務は一も之を全ふするを得ず。嘲笑と漫罵のどよめきを後に空しく歸還するの止むなきに至つた。今にして之を想へば一種云ふ可からざる痛快味を感ずるも。萬里波をけつて使節を恥かしめて歸るロードマカートニーの心中に何物を包含されて居たか。察するにだに餘りあるではなからうか。

茲に於て英國は威令に誇る清朝に對してはあく迄膝を屈する如くに見せ多數の貢物を金散布を前階として武衣の威力に官憲を疏隔せしむるを上策の策動なりと信じ爾後の政策は愈々奸惡の邪道を斷乎し行くに至つた。然し乍ら此要面には必ずや武威を擁して戰ふの慨あるを看破し通商の部下には軍人、測量家其等技術家の多數を座乘せしめ將來に備ふるに汲々たる處があつた。(是英國獨特の商船隊である)

一方マカートニーに從つて彼の屈辱を故郷に携ひ行きし屬吏は巧に支那の蠻風を宣傳し口々に怪異を唱へ怨嗟の聲を放つて誇大に民心を煽ふるに務めた。

かゝる内に鋭意潜樣能率を發揚するにつとめたる英國の奇計は着々と效を奏し來り官設の資收は順大中央に追も及ぶに至り特設殖民會社、東印度商會の貿易は日を追ひ年を經して愈々所期の政策に投影し行けるを以て前回の失敗に懲りる所なく第二回の使節派遣を計畫した。

其の選に入りしものが當時英國の貴族閥に羽振り良かりしロード・アムハースト(Lord Amherst)である。

一、清朝官憲の獨斷の制裁を取締り通商に依つて地方の保護を要求す。

二、厦門以後の印度會社の通商の獨占權保護を獲取する。

以上二事項を協定する傍ら支那の推移を研鑽探偵す可き訓令を受けてアムハーストが英京を出發せしは一八一六年二月十八日である。超えて七月下旬(廿八日)使節は海路大沽に着し清廷の派臣と會するや。清廷は重ねて前因の使節に對せると同一

規模の處が可成り多い。五人、三人、二人、甚だしきは一人位を雇ひ他は家内中寄つて仕事をすると云ふ制度の處も必ずしも小數ではない。

此れ等小資本家——は殆ど吾々と同じく又近き將來は大資本に壓倒せられ勞働者にならざるを得ない——と云へ共勞働條件の低下を企つることに汲々たる事は大資本家と同樣である、否、寧ろ大資本家よりも尚極端であり露骨である。

而らば斯の如き時に、吾々は如何にしてそれを阻止す可きか、茲に於てストライキを敢行す可きであるか、此の場合吾々の唯一の戰術たるストライキを敢行しても、三人や四人の小人數では或はその功果は期し得られないであらう。三人や四人の勞働者ならば、彼等は二言三言はずに直に補充出來るであらう。而りとするならば徒に失業者を多くするのみである。

であるならば吾等は如何にす可きか。此れ即ち當面の問題である。從來は組合に於ても「小人數の處は解雇を覺悟してやらねば仕方がない」と云つて居た。而し此れは甚だ誤りである。吾等は一人でも失業者の多くなる事を今日迄阻止して來た。一旦首切られても、交渉の時は『モー一度働かして呉れ』と首繁ぎの運動もして來た筈である。然るに解雇を覺悟してやると云ふ事は餘りに矛盾ではあるまいか。

然らば小人數の工場——三人二人の處では如何にす可きか、此れは吾々が

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

筆法の要求を爲した。之に先だち使節アムハーストは英京を離るゝに際して豫めかゝる待遇の生ず可き事を想起し本國の閣僚と打合せする處あつたが政府の意向は

「通商事項の解決する限り叩頭の禮の如きは意に介する勿れ」との議に決定し居たるを以てこの申出に接する豫期は充分にありたるも滿族一流の驕傲なる性質は今この大なる彼等に面接しては徒に内心の憤激涌くを禁ぜず兎角の[illegible]として一行に[illegible]せる東印度會社の支配人に徴せる處久しく東洋にありて支那の事情に慣れ且支那官憲の[illegible]威に接踵の經驗深かりし支那人は非常なる硬論者にして且背後に準備され來つた武備に力強き聲援を得たる折なりしを以て

「爾今交易の門戸開放されたる後廣東其他の地に生ずる結果を想ひ見れば北京に於いて受くる利益の如き問題に非ざるが故に苟くも國民の體面を失墜するが如き態度を爲すは絶對に不可なり」と主張せしかば再び英使はマカトニーの前轍を踏むの擧に出でた。

此時清廷は既に英國が恐威を振つて印度のネパールを略取せる事情を詳知し居たるを以て上下擧つてこの使節の身邊に注視の焦點をあつめ居たりし爲幾分愼重に取扱はざる可からずと思惟し居たるを以てこの強硬なる態度に格段の差別も設くる處なく應接して之を北京に招致せり。

使節北京に達するや仁宗はこの使節を清朝の離宮圓明園に迎へて國書捧呈の禮を行ふ可く術策した。然るに此度こそはあく迄強硬なる態度を以て終始す可きを覺悟したるアムハーストは長途の旅程に心身の疲勞甚だしく且禮服未着の理由を以て圓明園參朝の勅命を拒絶した。史實に據る彼等の拒絶理由の記錄を抄譯すれば

——八月廿八日通州に到着するや清廷の接待使なるもの來りて即時余を馬車に誘ひて頗る急行。暗黒極まる險難の泥路を撰びて走り徹夜強行？　離宮圓明園に至る。翌朝午前五時なり。余等は極度の疲勞に心身の激痛甚だしく困憊其極に達す。

清の廷臣直に余等を促して國書捧呈の儀禮を擧ぐる旨を述ぶ。

されど余等は旅裝の外に一襲なく國諸大禮服は後方にありて未だ着せずこの命をいるゝ能はずけだしこは清廷余等に含む處ありて屈服せしめんとする事明かである。依つて即時參朝の勅命は之を拒絶せり。——

是によつて觀れば清朝の非常識極まるを察し得らるゝに似たれども。これこそアムハーストが使命を達し得ざる理由を辯ずる遁辭にして彼等獨特の詭辯である。

今假に彼等の記錄せる事實を其まゝに檢するとしても「粗惡極まる險難の路」と云ふが如きも特に選びたる惡路に非ず。常時既に汽車の施設を有した英國の文明に慣れたる紳士を遇するにいとも心地よき旅路を持たしむるには現時に於てすら完備したる道路の乏しき支那まして百年の昔に於ては大工事を起して新道を設り西洋の賓客に興へざる限り相談し得ざる事は明かである。而る晝夜兼行の頗る急行は[illegible]大なる事後記の「翌朝午前五時着」を讀むだに明瞭である。[illegible]長く見積りて一晝夜その[illegible]の大行なる事支那人も又はだしである。從つて疲勞困憊其極に達し居るなぞ讀むだに噴飯に堪へず。當時の英國貴族の身體[illegible]從來の[illegible]血を以て徒に飽滿なる肉附を持つと聞く其實狀はガラクタ人形に等しか、[illegible]未だしも[illegible]の大册に非ず而も重大な[illegible]使命を[illegible]の間に使する大國の使臣が如何に[illegible]にありたるにせよ。あだたも現時に於ける土匪の誘拐にでも受けたる如く國書未[illegible]手許にあらざりしなぞつぶやく一も常識を以て判斷を下す可き餘地を見出し得ない。

是かへつて清朝を屈服せしめんとして探りたる強硬政策も參朝拒絶によつて全然失敗に終りたるアムハーストが自己の過失を辯じて其の責を先方に轉化せしめんとする明かなる虚飾である。

果然清朝の内外擧つてこの勅命拒絶を目して「清帝大侮辱事件」也とし問詰の聲は喧々としてアムハースト使節の身邊を威嚇した。

豫期に反したる使節は百方秘術を盡して之が抗議に當りたるも其意は常に朝臣の阻む處となり陳謝も又禁廷の内

大いに研究を要する問題である。以前はケース屋にロップを括り付けて、資本家に向ひ、何うだ吾々の云ふ事を聞くか、でなければ此のロップを引くぞ」と云つて殆ど恐喝同樣で要求を貫徹さして居た。

若しも彼等は要求を聞かず、その手にせるロップを引かれケース屋でも倒されやうものならば、その損害は實に莫大である、それを恐れてか、殆ど要求は貫徹して居た。此の戰術は小工場に於ても最も良く好果を齎した。

而し現在、此んな戰術で行かうものならば、やれ恐喝や、暴力行違反だのと云ふ所謂一片の法律で遠慮もなく監獄にブチ込まれる、でなく共監獄にブチ込む可く有らゆる無謀なる方法を講じて居る。

彼等は監獄にブチ込まれる位は更に痛痒を感じない、而し何等效果なくして徒にブチ込まれるのは甚だ苦痛である。

更に云ふ、「小人數の工場——特に三人四人二人——の處に於ては如何なる戰術を採る可きか、此れ即ち緊急を要する問題である、而も此の問題が、解決を覺悟してやらねば仕方がない」と云ふ所謂諦めに依つて等閑にされて居たのは返す〲も遺憾、殘念で堪まらない。で、更めて、此の問題に就て、實際に於ける研究を各勞士諸君にお願して新戰術を發見して、而して小人數の工場に於ても、更に待遇改善の運動をなす可きである。（完）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

に及ばず。仁宗閣臣の建言を聞き大に怒りて英使逐放の令を發するに至つた。

嗚呼、昨日の國賓は今や一介の罪奴に變じたり、酷暑、炎熱焦くが如きの境に一の同情の惠をも與へられず歸路の護照(旅行券)は勿論の事食糧の供給さへも制限され命からがら北京を退京するの悲慘なる情況に墮とされた。

かくしてアムハースト一行は悄然として廣東に送られ無念のほむらを燃やしつゝマカトニー使節以上の憂悶をいだきて歸國の止むなきに至つたのである。

前後二回に渉る使節の派遣はほとんど何物をも獲る處なく失敗に終つたがこの屈辱に直面せる一行の歸英するや前掲の如き清廷の横暴頑迷は完膚なき迄報告せられこれに尾鰭をつけたる虚飾の惡宣傳は支那の土地、人情、風俗を悉く虚僞の憎惡の煙幕によりて覆はしめて帝國主義侵出の口實をつくらしめたのである。

さればこれより暫らくの間は英國は鳴りを沈めて善處するに務め利潤滿喫の爲めに如何なる輕侮をも忍從し如何程の賄賂をも強行す可く節を屈し膝を折るの態度が續けらるるに至つたが十年前の單なる賄賂政策と甚だ趣きを異にし政策計畫の背後には非常に强硬なる軍備蓄積運動が胚胎され從つて之に依つて勇氣づけられたる資本群團の行動は愈々出でゝ澎湃に層一層の飛躍が續けられて行くのであつた。

通例史家の述ぶる處を見れば二使節の派遣による結果の不成功は單に英國政府の殖民政策に齎らされたる一服の清涼劑なる如く說かれてあるが。事實はかゝる上品なる生ぬるきものに非ずして單なる食慾が生みし資本進展に武力を背景にしたる帝國主義的侵略の轉機を生んだのである、換言すれば年來の暴力的侵出計畫を一擧に增大せんが爲にも流石に人類的正義を向ふに廻すの內心的醜恥あるを以て之を痲痺せしむる爲めに飲下しだる尤も强烈なる興奮劑であつた。ジンであつた、火酒であつた。五十度の燒酒であつたのだ。

國民の權威失墜と誇大に虚飾の宣傳をなして民衆の怨嗟の聲を涌かしめ往年阿片政策實施に入るに當つて涌かしめたる正義的輿論政府排擊の鯨波の聲を變じて「うてやこらせや支那の要」を叫ばしむるには如上の二事件は全く適當なる口實となる事に於て大なる役割を演じたのであつた。

かくして狡猾なる英國の貴族。ブルヂオアの支配階級は[illegible]政の估券によつて終始せる清朝爲政者との軋轢を[illegible]宣傳によつて巧に民衆の感情を[illegible]地に進展せしめ[illegible]に次の如き[illegible]「合法的に合法的に」と要望せし[illegible]段の如きも現在の[illegible]し。されば中央の[illegible]に依りて不[illegible]なる可き永久の地位を難攻するよりは飽く迄地方官憲を愈々深刻に墮せしめて刻々と一時的の甘味を賞味連續するの易きに如かじ──

これ即ち現代の地方軍閥官僚を胚胎せしめし一大原因である。

はたせるかな既往の合法的努力に倍加せる速度を以て形勢益々英國の阿片政策は有利に赴いた。

地方官憲の收賄政策に加へられたる矢繼速やの鞭打は遂に一八二〇年に至りて廣東以南に於ける東印度會社の貿易獨占權の獲取となつて現れ通商監督官數名の廣東派遣迄にも漕ぎつけて行つた。(この項續く)

（八頁より續く）

併し乍ら、勿論、その力は必ずしも物理的の力のみではない。

我等は生きて居る。我等には生命がある。その生の力の最も強きものは、生よりも強き死だ。私は或る事件に就て言つたことがある──「どんな彈壓も、それには限りがある。死を以て彈壓す以上の兇暴があるか。死刑を以て○○するより以上の慘忍さがあるか。

然るに、私共には、もつとも強きものがある。それは、死を覺悟した運動である。死を怖れざる鬪ひである──而して、さらに又私は言つた、──「殺されるものは死せず」と。死刑の慘忍と彈壓の死刑を以てする彈壓に克つものは、實に、死を怖れざる力である。

(完)

彈壓に抗す

去月十四日の眞夜中本同盟事務所(當時長野市)は當然長野署の爲めに包圍された。そして赤尾善德氏は犬共の爲めに檢束された。次いで翌日未明家宅捜索を受けた。續いて十五日午後八時頃上京中の工藤玖市氏が長野驛に下車するやこれ又五六名の私服の爲めに檢束された。そして兩氏は翌十六日、新聞紙に關する縣令第四十條とやらで拘留二十日を言渡された。兩氏は十八日に留置場より長野刑務所の獄舍に移轉された。その理由に曰く「新聞紙の廣告を强要した」と否、事情無根である、彼等は常に本同盟の爲めに極端な恐怖病に罹つて居た。それがため、十九日より、反動王田中大將以下閣員總出にて長野市の政友大會に來るに際し、斯かる名目のもとに彈壓を加へたものである。そして兩氏拘引中に本同盟を徹底的に切壞さんと計つたものである。

然し、進化の本流は何物を以つて提止せんとしてもそれはインポシブルである。各同盟會は斯の如き卑怯下劣な壓迫手段に何ぞ恐れん。返つて××の血潮は益々吾等の團結を堅固にした、そして各同盟會は一勢に糺彈の矢を以つて長野署に報いた。全同盟員の諸君は飽く迄屈せず彼奴等と鬪へ。

◆

兩氏の拘引、事務所の移轉、本部の爲め、八月中に機關紙の休刊の止むを得ざるに至つた。同盟員、一般讀者諸氏に對して誠に申譯なき次第だが、斯かる事情を御推察の上諒とせられたい。(長野縣北安曇郡平村勞農青年聯盟長野縣聯合會事務所)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

鐘を撞け目を醒せ 全國の小作農民よ

吉田源藏

一

嘗て地主組合が、其の全國大會に於て、宣言して曰く、『何處の亢兒ぞ火事なきに妄りに警鐘を亂打し、階級鬪爭を鼓吹し、小作農民を煽動して、地主に對して敵愾心を挑發し……』云々と。そして彼等地主共は、農民運動の前衞分子を聲を嗄らして罵つて『彼等のやうな農民ブローカが健全である限り、小作爭議は、如何なる豐作が續かうとも絶えるものでない』と云つて騷いだ。

そうだ。確かに彼等地主の泣き事を云ふやうに今後も、恐らく如何なる豐年が、例令何年續かうとも、小作爭議が絶えるやうな事は斷じてない。絶えるどころか、益々殖へて行くだらう。そして現に殖へつゝあるのだ。

だが然し、それは地主等の考へているやうな『火事なきに警鐘を亂打する亢兒』が小作人を煽動するからでもなければ、『農民ブローカ』が地主に對して敵愾心を挑發するからでもない。如何に『亢兒』が警鐘を叩いたとて、火事もないのに、當なしに驅け付ける馬鹿はない、半鐘を叩いて火事が起る譯も斷じてない。小作農民が鬪爭と云ふ火事場に集まるのは、警鐘に目を醒ましてハッキリと火元を見極めたからだ。そして、小作農民が、農民組合と云ふ消防隊を組織するのは、資本主義と云ふ極めて物騷な、火の要心の惡い、危險な燃燒性な大建築物が眼前に横たはつて居るからである。そして吾々は此の燃燒性の大建築物に火が付いた事を知つたのである、だから私達は、例令『亢兒』と云はれても、『ブローカ』と云はれても、半鐘を叩かねばならぬ。

全國の小作農民諸君。幸ひにして私達の叩いて居る半鐘に目を醒まされたなら、躊躇せずに驅け付けて貰ひ度い。

資本主義の火災は非常に大きな火事である、だからとても、手桶の一つや、バケツの一つ位を持つて、一人や二人寄つて來ては到底消せるものではないから、必ず農民組合と云ふ消防隊の動員をして貰はねばならぬ。諸君は直ちに『農民組合』と云ふ消防隊を編成せねばならない。そして半鐘の音に耳を傾けよ、而して火元を見極めて、編成した消防隊を動員せよ。

全國の小作農民諸君。高く、低く、強く、野に、山に、街に、森に、村に谷へと鳴り響く鐘の音を聞け。それは斯ふ鳴つて居るのだ。

二

元來百姓ほど算盤勘定を知らないものはなかつた、ところが維新以後段々教育が喧しくなつて、義務教育を百姓も町人も、平民も受けるやうになつてから、不充分ながらも、讀み書き算盤もするやうになつた。そこで百姓小作人も、働いても働いても貧乏するのが不思議でならなくなつた『何故吾々は貧乏するのであらうか』と考へて見たそして算盤を置いて見た、ところが次ぎのやうな數字が現れた。

田一反歩の生産の收入　（兵庫縣加古郡水足村農民組合支部の調査）

生産費總支出	一二八圓三七〇（細目は省く）（一石三十六圓の割合で小作料共）
之に依る總收入	九一圓五九〇
差引	三六圓七八〇の缺損

（此の計算には役場の入費や寄附金等は這入つてゐない）

たいがい貧乏もするではないか、田一反耕作すれば、約三十七圓の損をしているのだもの、然しながら地主等は云ふかも知れない『それは『亢兒』や『ブローカ』が勝手に小作人の都合のよいやうに組み合せた計算だ』と。どうせ吾々『亢兒』や『ブローカ』には信用がないのだから、彼等地主等の尤も信用している、彼等地主等の番頭達が行つている帝國農會の調査した數字を讀んで見やう。

一反歩當生産費	一一二圓八七八
之が收入は	八四圓九二五
差引	二七圓九五三不足

これは彼等地主達が『亢兒』『ブローカ』と毛嫌ひする人達が調べたのではない、彼等の手代であるところの忠實なる彼等の番頭達が、岡山縣下に於て一市十一郡に渉つて、二十六ヶ町で調べ上げた平均である。彼等地主等の番頭達の手を以てしてさへ、尚且つ一反歩の耕作に付き、百姓小作人は約二十八圓の損失を蒙つて居る。

如斯百姓小作人は、田一反歩作るにしても、二十八圓もの損失……即ち貧乏をして居るのだから、假りに今一町歩を耕作している農民なら、二百八十圓の貧乏をしている譯である。面倒だが一度彼等頭の迷へる地主共に、農民運動の起る理由を教へてやる爲めに、彼等の手代である役人等が調べ上げた數字を掲げて見やう。

一町四反を耕作してゐる自作農で副業其他二毛作等一切計算して家族を八人と見て、其の一ヶ年の全收入は、一、四九〇圓八九〇で、支出は、一、六七二圓四二〇で、差引一八一圓六三〇の不足となつてゐる。次ぎは小作農の數字だ。

一町二反の小作を行つている六人家族の一ヶ年の收入は、收入が、一、三

一六圓二四〇で、其の支出は、一、三六〇圓三四〇で、差引四四圓一〇〇の不足だ。ところで此の統計の細目……細目は誌面の制限が許さぬので省く……を見ると小作農の方には、自作農にある社交費や、兒童教育費、娯樂費用等が計上してないから、今若し自作農に計上してあるそれ等の費用一一〇圓〇〇〇を見積るとすれば、小作農の不足額は、一五四圓一〇〇となる譯である。

私は先きに農民は田を一反耕せば約二十八圓の損失のある事を、官廳の調査統計表に依つて明かにした、隨つて私は一町歩を耕せば、二百八十圓の貧乏だと附言した。

三

『然しながら農民は現に生活してゐるのだ、田を一反耕して二十八圓の缺損をしなければならぬ……農民の組合の調査では前掲の通り三十七圓の損失となつてゐる……何うして今日の生活をしてゐるだらう』と云ふ疑問は誰しもが必ず起すところである。ところが疑ふ餘地のない明かな事實がある、それは、其の不足分を農民達は、副業と借金とでやうやく凌いでゐるのだ。現に農林省邊の調査統計表を見ても副業として、製茶、養蠶、田園果實、種子等の收入が、總て生活費に繰り入れてある、そして尚且つ前掲のやうに百八十圓乃至百五十圓もの不足を生じてゐるのである。元來副業は飽く迄副業で文字通り副業でなければならぬのである、副業である限り副業から生ずる收益は財産となつて當然殘らねばならぬ性質のものだ。卽ち副業の收入はそれだけ生活狀態の向上に振り向けらる可きものなのである。それだのに副業の收入を全部日常生活費……娯樂費も教育費も保健費用もない只生きるだけの費用……に當て、尚且つ不足を生じて居るのである。卽ち此の不足分が所謂負債……借金となつて現はれるものである。農民が借金に依つて此の不足を辛うじて償つて居る事も「元兒」や、「ブローカ」の云ふ事は彼等地主共は信用しまいから、彼等地主等の命に依つて調査した彼等の手代である役人等の復命書を覗いて見やう。

農民の負債　大藏省理財局調査

明治四十五年には七億四千六百萬圓であつた、そしてこれを我が國の農家總戸數に割當てれば、一戸當り約百三十五圓になる。先きの農民の生活調査統計數字と比較するなら、隨分思ひ當る事があるだらう。そして此の七億四千六百萬圓の農民の負債は決して減らない、益々殖える一方であるし、現に大正二年には既に九億四千萬圓に上つてゐる。

斯うした狀態はやがて農村の疲弊となつて現れて來た、帝國農會の調査報告に依つても、年々五百五十萬戸の農家の内、一萬戸宛自作農が小作農に落ちて行つてゐる。農家の悲慘な狀態は税金の滯納處分を受ける狀態を見ても察知する事が出來る、僅かに二十五錢から四十錢、五十錢位で處分せられるものが毎年五萬六千人からあるそうである。

四

ところで、國民の利益幸福の爲めに專心頭を惱まして居ると云ふ政府の役人達は、この農村の疲弊、農民の困窮に對してどんな事をしたか、そして將來に於いてもどんな事を考へてゐるであらうか。彼等の現に今迄行つて來た事、尚此の先き實行しやうとする計畫は實に馬鹿々々しい胡魔化しである。

今其の馬鹿々々しい胡魔化しの實例を一ツ二ツ露いて見やう。農村振興の本家本元である前内閣を行つた憲政會はどんな事を行つたか、彼等は一ケ年二百五十萬圓宛を計上して、自作農創定と云ふ事を行つた。之を全國の五百五十萬戸の農家に割當てると、勿[illegible]金五十錢也だ。假りに田一町歩五千圓で買へるとして、一年に一町歩の自作農を五百戸拵へるだけだ、一町歩の自作農を一年に五百戸拵へる事は、確かに結構な事には違ひないが、先きにも掲げた通り我が國では、一年に自作農が一萬戸宛小作農に零落してゐるのである。幼稚園の小供でも分るやうな胡魔化しだ。

ところが交代つて現れた現政友會内閣の、所謂根本策に基くところの農村振興策は、毎年三千萬圓の公債を發して自作農の創定を行らうと云ふのである。昔の農民ならいざ知らず、昭和聖代の小作農民は草鞋を知つてゐるから、そう／＼は胡魔化されてはゐない。農村を振興し、農民を救ふものは誰であるか、それはヘッキリ分つて來た。デンマークと云ふところでは、自己が耕作し得ない土地の私有を禁止した、そして農業の根本國策を遂に確立した。我が國の政府も何故農業に對する根本方策を樹立しないのか、これも分りきつた事である、若しも政府が根本的な農村政策を確立したら、第一番に地主達は悲鳴を上げねばならぬ。彼等の富も、彼等が拱手徒食してゐられるのも、所謂農村の疲弊、農民の貧窮が條件であるからだ。

既にして政府が地主達の手代であり番頭である事が明かである限り、小作農民と地主との利害關係が、相對的な關係にある限り、耕作者の權利を××する事が地主の立場を確保する事である限り、吾々は政府に農民解放根本策の樹立を期待するが如きは愚の骨頂である。農村の疲弊、農民の貧窮は、塞の河原の石積のやうな自作農の創定や、蓄音器のレコードから借つて來た肥料の分配では救はれないのだ、農村問題解決の鍵は、只其の根幹に觸れる事を勇敢に行ふものゝみが握つてゐるのだ。それは誰だ、俺達だ、小作農民だ、巨大な社會群よ、お互の力を信ぜよ。鐘を撞け、目を醒ませ。

全國の小作農民諸君!!

「をはり」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

農村に於て展開さるべき鬪爭

田口兼治郎

勞農新聞第一七號（八月二十一日發行）は報告する『春の金融恐慌は支配階級の極度な反動化と一切の被壓迫階級の經濟的政治的不滿反抗を激化した。

今や都市に於ては我黨の提唱による法案獲得運動を中心として市町に、借家、ガス水道、電氣料問題に從業員大會は工代會は産業別塊別ジェネラルストライキ市町民大會等々我黨の掲ぐる政策の下に益々有效活潑なるベタロと宣傳と組織が進められてゐる。

農村に於いては今春未曾有の立禁が猛襲した。奈良縣添上郡八條に於ては去月廿五日の早朝耕作權擁護の血みどろな亂鬪が演ぜられた、八條農民はかねてから奈良山の大森中村等の地主と係爭中であつたが、立禁の危險を考へて晝は支部旗その他の信號を用ひ、夜は高張提灯を押立て警戒に努めてゐた。當日午前五時頃見張の農民が朝食に歸宅した僅かの隙に絶えず機會をうかゞつてゐた執達吏と、多數の地主の手先共は瞬時に、立禁札を立て廻つたのであるこれを見るや激昂した農民は家族總出で一齊に現場に驅け付け、保佐川の邊りは耕作權擁護の血みどろな修羅場と化した。所轄奈良署では警官五十名をトラックで現場に急行させ拔劍して、地主の手先を擁護しやうとしたが、死物狂ひの農民は「斬るなら斬れ」と怒號し突きかゝつたので警官も手の下し樣なく地主の手先も命からぐゝ逃げさつた。だが、上杉美一郎君岡衰しげ君その他五名の農民は犠牲者として奈良の刑務所へ護送された。餘りにも苛酷な大地主の暴狀を目の當り見た村民は怒りの焔を燃して、二十八日には大地主糺彈の農民大會が開かれた。朝九時だと言ふに會場は滿員で入り切れない農民は庭前に溢れその數は六百に越えてゐた、而もその三分の一は婦人で小學生も五六十名押しかけた。「大地主横暴」の叫びは會場彼處に起り、底氣味惡い程凄愴の氣に滿ちてゐる。開會の辭が始まつて村民有志の演說が始まつた。

農村組合の幹部は今回の立入禁止反對運動の經過を報告した。大地主の×の樣な×知らずに立入禁止のお先棒に使はれたヤツラ執達吏大地主を擁護する奈良官憲の××は完膚なきまでに痛罵暴露された。子供を背負つた婦人同士は立上つて「祖先傳來の土地を取り上げて我等を殺さうとするのか。警察はこの乳吞兒を餓え死させ樣とするのか」と産所を守る主婦として當然な腹の底から湧き上る叫びを擧げた。大地主の暴狀に憤激し小作人に同情して集つた自作農小地主の農民諸君が入代り立つて大地主が如何に村政を横暴してゐるか大地主のために村全體がどれだけ苦しめられてゐるかを訴へ「この際一致して大地主を糺彈しなければならぬ」と氣焰をあげた。この村民大會の議決として

（一）立入禁止絶對反對
（二）耕作權確立
（三）暴力行爲取締法撤廢
（四）家屋稅、荷車、自轉車稅の撤廢
（五）強制寄附絶對反對

等が可決されそれを大地主、奈良警察、裁判所、司法省、內務省に郵送することに決定したのである。その時の會場の一隅から「決議を大地主の所へ持つて行け」と言ふ聲あり「異議なし」熱狂した大衆は庭前から大道に溢れ出て殺氣はみなぎつた。

農民組合の幹部はそれを整理して代表に決議を托して大地主に手交し終つて散會した。更に日を期して同支部が中心となつて添上郡民大會を開らいて直稅、惡稅其他の強制寄附の泉源地である奈良縣會を糺彈する豫定である。』

以上の報導は農民運動の現段階に於ける深刻化を示す代證である。勿論以上の事實は一奈良縣のみではないのである。

昨年の新潟の木崎事件を始とし今春三重大阪、島取、香川、岡山、新潟等々全國的に立禁が猛襲した。

今や小作農は云ふに及ばず、自作農小商人層の急激なる窮乏化を見、經濟的政治的不安動搖反抗は鬱積し彼等と大中地主との對立は著しく激化されて來つた。

かくて農村に於ける絶對專制勢力の大支柱たる大中地主の地方的生活場面に於ける經濟的政治的支配力に對抗する一切の要素即ち小作自作小地主小商人等を鬪に動員し我黨の指導の下に獲得することはいよいよ可能性を増大した。從來は大地主に對する小作農衆自作農の鬪爭たるべきことが當然であつたが、今や大中地主に對する小作人を中心勢力として一切の被壓迫層を加へたる全村民的鬪爭に中心を移してそこで發展せしめられることが絶對に必要となつた。

かゝる狀勢の進行は我黨府縣會選擧戰のために絶對の基礎を準備したものでなければならない。

現選擧戰に於ける我黨の目標は數次力說したる如く、府縣を通じてあらはれる中央の專制的支配を徹底的に曝露しもつて全民衆を絶對專制勢力への抗爭に動員しこれを我黨指導の下に獲得することとである。

然して我黨はこの普選による全國的選擧の中心の重要性を認識し、當面、政治的暴露の中心を府縣にあらはれる絶對專制勢力に集中しつゝ、その地方の全民衆を苦しめる惡稅の根源地、彈壓の直接××人たる官僚知事を中心とした地方當局、府縣會の本性を暴露することなくペクロしなければならない。

然し農村に於ても專制勢力の保護の下に農村の一切の被壓迫大衆を壓殺せんとする大中地主に對するペクロ並に爭鬪が生々と組織發展されねばならぬのである。

金融恐慌後いやが上にも高まり來たつた全農民の反抗不滿が愈々益々高まりつゝある。かゝる形勢と鬪爭の經驗とは、農村に於てまさに展開せらるべき鬪爭が村民大會、村民代表者會議運動たるを指示してゐる。

日本農民組合は勞農黨のヘタラキかけにより全國に協同戰線を展開すると共に勞農黨と協力して農民の要求を統一して全農民大衆にアヂテートし大地主に對立する農民を決定的勢力とする村民大會運動展開に努力しなければならぬ。日本農民組合は右の如く自ら大衆にアヂテートし農民大衆を動員し得てはじめて全國的の協同戰線を戰ひとりうるのである。この鬪爭に於て要求すべき項目は地方により特殊たるを免れないが、併し必ず黨內の農民のために掲げてゐる代表的要求を織込まなければな[illegible]ぬ。かくて初めて村民大會運動は府縣代表者會議運動、全國的デモストレーションにまで高められることが出來る。（完）

勞働者階級の社會的主要なる同盟者は農民である

勞働者階級は最も勇敢に大膽に斷えず農民に對して共同動作を働きかけなければならぬ

農村の子供の權利と義務

神庭光雄

農村の子供達よ。

私は君達が長い夏休みが終つて、小學校へ通ふ姿を目の前に浮べてゐる。お母さんが、夜業にせつせと作つてくれた新らしい藁草履を穿いて、涼しい朝の山陰を唄を歌つて行くのも、雨傘をくるくる車の樣に道の上に廻し作ら歩いてくる、いたづら好きな眞黑な顔も、草の陰から頭を出した靑大將を半殺しにして喜んでゐる顔も見える。

君達が小學校へ行く道中は、一面の稻葉が繁つてゐるだらう。……農村の子供達よ……寒い頃から精出して苗を作り、田に植えて、君達が夏休みをしてゐる間に、何遍も草を取つて育て上げた稻は、日本國中の澤山の人達の生活を保證するのです。私は、田舍にゐる時、よくいたづら子が手で米をしごいて落したり、杖でないだりするのを見た。いたづら子供は、いたづらを止めよ。米は一粒でも尊いのだ、そして、その一粒一粒には、お父さんや、お母さんや、又お祖父さんや、おばあさんや、兄さん姉さんの長い努力がこめられてゐる。

農村の子供達よ。

お父さんや、お母さんは一年中、朝から晩まで野に出て働く。君達がねぼけ顔をこすつてゐる時、もう朝の仕事をして歸つてくる。そして、秋になれば澤山の收穫がある。澤山の新らしい米俵が積まれる。それだのに、君達の家には俵を入れておく土藏はない。一寸した物置や戸棚ではいけない。けれども、その澤山の米は何時の間には何處かへ運ばれて了つて、君達の家には一年分の食糧に足りない程の、屑米や三等米や四等米が殘るばかりだ。ではお父さんが車に積んで町へもつて行つて金と代へたのか。金はうなつてゐる答だ。所がその金もない、君達の家は何時も有餘つた金はないのである。で、米俵を町へ行つて金と代へたのでない事が分る。

農村の子供達よ。

米俵の行方は何處へ。大部分はあの朝日夕日に輝いてゐる地主の土藏へ行く。亦、税金の形となつて役場の收入役の手に渡される。こうして、あの汗と油の結晶は、立派な廣い邸宅や、綺麗な衣物や、自動車や、飛び廻つて遊んでゐる費用となり、村役場の門をくゞつた米俵は、大金持の失敗や、不始末の結果の後始末となり、鐵道や、道路をつけて、地主や、政治家の末輩共に不當な利益を與へ、外國まで出掛けて行つて、弱い民族や、貧乏人を苦しめるのである。亦無制限に軍備を擴張して、税金は昂り、働き盛りの無くてはならぬ兄さんは兵隊となつて、家計は苦しくなる。それに戰爭でも起つたら大變だ。澤山の人が鐵砲や、劍の爲めに違い異國の土と化して了ふ。戰爭は恐ろしい人類の慘事である。戰爭は現在の社會組織の下には必ず起るものである。資本主義といふ少數の階級による大多數の階級の搾取がある樣な仕組の下においては必ず起る。十年程前には世界中の大戰爭があつた事は君達も知つてゐるだらう。また近頃は强い國と云はれてゐる國の金持共が、弱い支那を虐めてゐる。各國の資本家共は澤山の兵隊や軍艦で、おどしつけたりだましたりして、何時迄も默つて俺達の云ふ事を聽けと迫つてゐる。しかし弱い支那は何時迄も迫害や、虐政に眠つてゐませんでした。支那の青年や學生や百姓や勞働者や子供達に至るまで憤然として立つたのです。そして、勇ましく、各國の金持共の野心に對抗して民族の平等、不平等條約の改正等の爲めに戰つてゐる。支那をいぢめるのは金持共の利益である。支那の人々が反抗するのは金持共の利益を害するので、金持たちは兵隊や、裏切りを勸告して永久に搾取されてゐよと叫んでゐる。戰爭は何時も國民の反目の結果ではなくして、資本家共の反目と利害關念の衝突から起るのである。何にも知らない國民は戰爭に引張り出されて、そして資本家の利益の爲めに戰つてやる。

戰爭は吾々プロレタリヤにとつては必要のない事だ。吾々は戰爭に反對する事が正義だと思つてゐる。その爲めには、世界中の勞働者や農民の團結と握手が必要である。

農村の子供達よ。

君達のお父さん達は、そうした正義の運動に加はつてゐる。戰爭反對を叫び支那出兵に反對し、プロレタリヤの友情をもつて弱い國の貧乏人と固い握手し、共同の×を發そうとしてゐる。共同の×とは何か。それはプロレタリヤ階級を何時迄も飢餓と窮乏の淵に突落してゐる資本主義社會組織と、それを頑强に支持し防衛する階級である。敵は强い。政府も、法律も、教育も全部ブルヂヨアに御都合のいゝ樣に作られてゐる。そして、これに反對する者に向つては容赦なくひどい目に會はせるのである。澤山の警察費はこうして、君達のお父さん等の農民組合や、都會の勞働組合や、水平社、思想團體の彈壓の爲めに使はれる。プロレタリヤが出して、そしてその金でプロレタリアの叫びが蹂躪されてゐる。

農村の子供達よ。

世の中で一番大切なものは農業である。農業は人類の生存の可否を左右す

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

るものである。昔の凶作の時を思へば如何に悲惨なものであつたか。現在とてもその通り、貧乏と飢餓に泣かねばならぬ。さて、その世の中で一番大切な農業に從事するものは、收穫後、小作人から澤山年貢を取上げる地主ではなく、皆君達のお父さんお母さんである。勿論、世の中は農業ばかりで成立つものではなくして、工業も必要である。

世の中の柱は勞働者と農民である。この柱なくして社會は一日も成立するものでない。然るに、農民、勞働者も何時も貧乏と窮乏に苦しんでゐる。吾々はこの農民、勞働者の尊重される、しつかりした文明を建設しなくはならない。搾取のない社會を作らねばならない。

農村の子供達よ。

お父さんは農民組合を作り、お母さんは組合の婦人部を作り、兄さんはその最も思想的な前衛隊である青年部を組織して、横暴な、今迄眠つてゐた百姓を苦しめてゐた地主をこらしめ、都會の勞働者と握手してブルヂョア政府の横暴と戰つてゐる。

歴代の内閣はいづれもプロレタリヤを暴壓してゐるが、今度の田中義一といふ陸軍大臣を總理大臣とする内閣程壓迫するものはかつてなかつた。勞働者や農民の失業、賃銀低下に苦しんでゐる時にも、何等爲す事なく、反之、資本家の困つてゐるのは幾何でも國民から税金を取立てゝ助けてやつたのだ。そして、農民組合や、勞働組合や、思想團體をぶつ壊そうとして、演説會や、集會を禁じたり、檢束したり、中止したり、組合の新聞雜誌を禁止したり、立入禁止を頻々と行つたりしたのです。

けれども、君達のお父さんや、兄さんはこうした壓迫にも屈しませんでした。これは、君達自身のよく知つてゐる事と思ふ。

祖先傳來、一年中働いてゐた田を横暴な地主は「小作人立入るべからず」の一片の立札によつて、小作人からもぎ取つて了つたのである。田をとり上げられて、どうして百姓は食つて行く事が出來よう。耕作權なくしてどうして百姓は安心して業を營む事が出來よう。

農民運動は正當な生産階級の不當所得階級への反省運動であり、生存權確立の運動であり、それを實現する爲めの資本主義制度××の運動である。

農村の子供達よ。

君達は農民運動を理解しなくてはならないのだ。そして、その一部となつて、お父さんお母さんの仕事を助けねばならぬ。

鳥取縣西伯郡の子供達は、立入禁止の執行人の來るのを警戒して、發見するや、鑵ガラを叩いて急を組合に告げたではないか。

立入禁止が來て、一家の經濟の危險な瀬戸際に立つて、君達は平氣の平左でゐる譯には行かない。生活なくして教育はないのだ。農村の子供が運動に參加する事は今や、絶對に必要とされてゐる。

新潟縣の木崎村の爭議は、農民學校を設立して天下の耳目を聳動させたが官權の壓迫に會つてつひに慘敗せざるを得なかつた。しかし、一度や二度や否百度も千度も敗けても立て。

農村の子供達よ。

君達は小作人である事を悲しんではならない、小作人のみが將來ある階級であり、歴史を作る巨人である。君達はやがてはその巨人となるのだ。

黨も組合も君達の教育の必要を知つてゐる。少年部設置の必要も叫ばれてゐる。

イザといふ危急の場合には何時でも立つ事が必要なのだ。全國の少年少女諸君は共に握手して、この大事業を助けなければならない。それが、君達がよく教へられてゐる親に孝行する所以でもあり、社會を愛する道でもあるのだ。

農村の子供達よ。

ロシヤの子供達は、今盛んにコンミユニストとしての將來の爲めの教育を熱心に受けてゐる。この子供達がやがて成人して一人前の男となり主婦となつた時には、初めてロシヤの國是は祝福されるであらうと云はれてゐる。日本の勞働組合も、農民組合も、この子供達の將來を光あらしめなければならない、無産政黨の分裂抗爭の餘波はこの子供達に惡影響を與へるではなからうか。吾々はこれをひそかに憂いてゐる。分裂、抗爭は大人だけの問題でありたい。否、大人の問題も、もう終局を告ぐるべき時である。資本の攻勢と、無産階級の分裂に對する意識は、合同へ合同へと向ひつゝないだらうか。私は、日本の大人たちがコンミユニストとしての未來ある子供達に害のある樣な教育に對して敢然として戰つてくれる事を望んでゐる。

私達農村の子供達よ。

私は重ねて、君達がお父さんお母さんの仕事を助けてくれる事を期待してゐる。農民組合の運動が虐げられた生存權の獲得の爲めであり、お母さんの運動は眠つてゐた婦人の痛切な運動である。

農村の子供達よ。

お父さんが生存權を奪はれてゐる時は、子供達も生存權は奪はれてゐるのだ。生存權なき所教育もないのだ。生存權を奪つてゐて教育〳〵と喧しく云ふ權利はないのだ。未來のコンミユニストはかゝる時、生存權確立の爲めに立ち、お父さんお母さんの運動に參加しなければならない。子供達の積極的參加はどの方面に火ぶたを切られるのか『×××』支配者による教育の××はこの生存權を脅威されたものゝ權利である。

それには、あらゆる斷壓がくるであらうがしかし、これを突破して行くのは、お父さんやお母さん、社會への子供達の義務である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

農民は無産階級解放戰線上の重要なる一翼に隊列せよ

原田今朝二

農村振興とかけて、野原の雲雀と解く、その心は、聲ばかりして姿が見えない、とはゞあんまり芳しい洒落ではないが、とに角、「農村振興」といふブルジョア政治屋商店の大看板は、遂に、そして永遠に單なる客引の看板に過ぎない。もつとも、ブルジョア政治家達による農村振興は、木によつて魚を求むる場合の如く、夢想に於いてのみ可能である。何故なれば、帝國議會は、モンテ・カルロの××場であり、スペインの闘牛場である。この×××的ブルジョアの巣窟から、醜惡と欺瞞のみが生れ出づることは必然である。であるから、此處に呱々の聲をあげた農村振興策の數々もまた必然に「欺瞞」である。

現下、人々の視聽を集中しつゝある農村振興の具體的方策(?)「自作農創定法」が如何なる欺瞞的役割を演じつゝあるか、僕は以下に於いてあつさりと、闡明、曝露するであらう。だが、その前提として、如何に土地の×××が殘虐であるかを展開しなければならないと思ふ。

宇宙が創造され、土地が成生されてから現在までどの位の歳月が流過したであらうか、それが、五億年(ケルビンの説)であるか、二千五百萬年(ハツクスレーの説)であるか、我々は今それを問題とする必要はない。たゞかういふことははつきりといへる。人間がヒヨツコリと出て來て土地をわが手で創造したのではない。土地といふものが成生して、然る後に人間が發生したのである、と。であるから、この人間の發生及び生活上の根本的、基本的土臺として存在してゐた「土地」なるものを、「此處は俺のものだ」「彼處も俺のものだ」と、自分勝手に私有獨占して、絶對の所有權を主張することは、はたして妥當なことであらうか、いふまでもない。土地は空氣や水と等しく、本質的に私有獨占と矛盾性をもつてゐるのだ。必然にこの世に生れ出づべくして生れ出でたる人間のすべては、等しく土地に對して權利を賦與されてゐるべきはずである。

現代の地主達が、かゝる土地の絶對××權をふりまはすが如きは潜越至極である。いつたい、彼等のみがどうして、誰から、土地を××するべき特別の理由を賦與されたのであらうか。彼等が貨幣によつて買得したのだとすれば、いつたい誰からあがなつたのであるか。絶對なるこの土地を賣却する權利を誰が握つてゐるのであるか。たゞ偶然なる事情によつて所得したのであるとすれば、それは××××××××。國家が形成さるゝ最初に於いて、國民が、少くとも農民の全部が正當なる土地の分配にあづかつたる歴史的事實は存在しない。而して、明治の初年に於いて、あまりにもばか〳〵しき、偶然さ、不正當さによつてわが國の土地の私有權が確定された事實は我々は知るのである。小作人は、何等小作人になる理由なくして、他發的に小作人に決定されてしまつたのだ。

現在の如く、商品生産社會下に於いて、商及び工業者はその生産維持上に多くの土地を必要としないのであるが、農業者にとつては土地は、最大な、決定的な生産機關である。この生産機關の獨占によつて、わが國の三千萬人を算する小作農民が、如何に苛酷なる勞働(朝飯前仕事、夜業などを合して一日に十五時間の勞働それも一家總出でだ。田の水引き時、養蠶時など晝夜中に起き出でゝ働かねばならぬ。少年工の使用禁止が實施されるの時、小作人の子である僕達は、あゝ如何に親達と共に勞働力を搾取されたであらうか)を、悲慘なる生活(豚小屋の如き住家。粗食ぼろの着物。絶えなき生活の脅威と、綿の如き疲勞以外に、いつたい、僕達は人間として何を惠まれたであらうか)を、強制されつゝあるか、あまりに有名である。實際、わが國の如き不法な小作料を負擔する小作人は世界の何處をたづねてもない。耕田一町歩當り四百圓に近き小作料は、世界の各國のそれに比較する時、五倍以上十倍乃至百倍に相當する恐ろしき比率を示してゐる。而して、全耕地六百十萬町歩の中、約三百萬町歩はかゝる法外なる地主の搾取機關となり終つてゐる。

AとBとの農夫があつたと假定する。Aは耕地二町歩の地主であり、BはAから二町歩の耕地を借りてゐる小作人だとする。この場合、Bは全收穫物の約半分(十俵穫りの田で七俵乃至八俵を年貢するのが、僕の村の普通である。而して該田地から、十五俵の米を收穫するには、氣候の順調と、多大の金肥を施さねばならぬ)を、Aに「ありがたうござわした」と、頭を下げて年貢しなければならないのだ。Aは地主であることによつて、すべての生産費(勞力、肥料農具、など)を消費することなく、傲然として不勞所得するのである。

あゝ、Bは小作人であるがために、A一家の生活をも維持すべく強制さるゝのだ。

しかし、よしそれも彼の何かの罪に課せられた刑罰として甘受するとしても、Bの家に生れた子供はどうであるか。彼も父の如く、自家以上の生産品をA家のために貢ぐべく宿命されてゐる。Aの子は、また當然の如くにそれを不勞所得する。(Aの子」「Bの子」その二人の子の何處に何の變りがあるか。共に生きるべく同等の權利を獲得してこの世に生れて來たのだ。それなのに、一は「地主の子」一は「小作人の子」であるが故に……。のみならず、その子、その子とその矛盾が履行することを、××は、法律は、暴虐にも肯定し、擁護してゐる。

「小作人」

あゝ、それはあまりにも過重な刑罰を課せられた無代の××だ。國家權力を背景とせる×××のために××さるゝのみならず今や資本主義による都會の搾取、過激なる二重の搾取に、自由權はおろか、生存權をさえ蹂躙されて(生活苦による自殺は第三位の自殺率を示してゐる)呻吟してゐるのである。

「都會の搾取」

見よ！　この搾取(農産物の價額がその生産者の當然の權利を無視して市場によつて決定されること。納税の負擔及びその消費の不公平。あらゆる貯金の都會による消費。その他色々)は、自作農者をも困苦の淵に突き落したではないか。年々沒落する一萬餘戸の自作農家は、明然とそれを實證する。といふよりも、「農村の疲弊」が、それを鮮明に物語つてゐる。

この時「自作農維持創定法」が實施されたとて、どうして、それが農村の疲弊を救濟することが出來やうか。この法案こそ狡猾狐狸の如きブルジョアジーの欺瞞策だ。「自作農創定法」それは「救濟」といふ美しき粉飾を施せる惡辣なる妖婦である。妖婦の正體を曝露せん。

(二十九頁へ續く)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

嘘吐きか？ 馬鹿か？

向軍治

是迄福田博士は今少し紳士として對手にする價値のある人だと思つて居ました。「進め」七月號の答を果して博士が眞面目で書いたものでせうか。よくも恥かしくないことです。

「向氏が私の著述について御論じ相成つたことは何れも第二版以降の各版に於て訂正加除してあります」は嘘の皮です。私の手許にある本は大正十三年十月版で第十版です。大正十四五年最新版を覧て呉れゝばあんな議論は起らない筈。二十年も昔の舊版に就て彼是謂つて居るのではないか」なんて人を馬鹿にして居るにも程があります「進め」の讀者は實際に自分の著書と向の議論とを較べて讀む心配はないから嘘八百を並べ立てゝ善い加減のコケオドシを謂つて置けばエラさうに見えて無學な連中を威すのに都合が好い」とでも思つて居るのでせう。人を嘗めて居るにも程があります。併し學者と云ふ面をしてよくもあんな嘘が言へますね。早速御希望に應じて十三年版を十四五年版と比べて見ました。驚きましたね訂正してあるのに。十版七四頁の「始むべき」が「始めむべき」と訂正してありました。其外一字一句違つて居ません。「何れも第二版以降の各版に於て訂正加除してあります」は眞赤な嘘です。訂正した夢でも見たのかも知れません。平氣で嘘を吐くと云ふ學者は今時でも餘りありますまい。面の皮の厚さを問ふのは野暮です。

福田博士が嘘吐きで無學であることは昭和二年七月の「進め」が證明してゐます。大正版よりは此方が確です。

「ハクシ」とは智識の薄きこと紙の如しとでも云ふ譯でせう。厚い方は何枚重なつて居るのか知りませんが、其の厚い皮を一々剝いで御覧に入れます。

「經濟學全集八冊」一杯と大ゲサに吹立てる癖にマルクスと言へば直に思ひ出される程有名な「ラサル」の名前すら知らない男は私の眼には馬鹿としか見えません。「ボルシェヴィズム研究」十版四八頁二ケ所、六四頁一ケ所、二四一頁二ケ處、ラサルの事が説いてあつて「ラサルレ」と綴つてあります。訂正の際見落したとでも謂ひますかね。「最新版」も「ラサルレ」となつて居ますから、今度は「未來の最々新版」を見たらあんな議論は出來ない筈」とでも謂ふ積りでせう。滑稽も此處まで行くと、垢抜けがして居ます。ラサルの家では苗字を種々取換へて最後に、「ラサル」と獨逸語風に綴つたのです。ラサルがパリへ行つた時、尾に「エル、エ」を加へて綴をフランス語風にして發音もフランス語風にしたから矢張「ラサル」であつたのです。福田博士がそれを獨逸語風に發音したから「ラサルレ」が出來たのです。「恥をサラサル」に似通つた處のあるのが面白いと思ひます。名前を取違へる位は千百（センパク）の智識を備へた學者には當然の事、論より證據名詮自性だものを左の通りうなる人があつても致し方ありますまい「世のために禍になり損なるを福だ德ぞと人は謂ふなり」

博士曰く「マルクスのインターナショナルに於ける行動が經濟史の問題であるとは驚きました。成程其樣な經濟史なら私は經濟史を知りません」と。私はこんな謊言を謂ふ無學さ加減に驚きました。下らない事を謂ふよりジードの經濟學説史「イストアール、デードクトリンゼコノミク」でも讀め。此經濟學説史には全體八百頁近くの中に三百頁許り社會主義の事が書いてあるのを博士は知らないのかね。一九二二年版緒言八頁中央には何と書いてある、馬鹿。「機械の發明がなく、大工業とプロレタリアとの並行した發達がなく危機（此字の原語は普通經濟學者が「恐慌」と誤譯して居る字で英語でクライシスと云ふのです。此事は後に論じます。）が相繼いで起らなかつたらシスモンディやマルクスの學説も起らなかつたに違ひない。」三七五頁はどうだ。「一八六八年のブリセルに於ける又一八六九年のバール（バーゼル）に於ける（インターナショナル）の會議ではマルクスの勢力が優勢になつた。」此處も「マルクスの影響」かね、馬鹿。七三三―七三四頁はどうだ「バクーニンの經歷の最も著しい點は彼が一八七二年のヘーグに於けるインターナショナル最後の會議でカルル・マルクスと仲違ひした事である。バクーニンは一八六九年にインターナショナルへ入會した。併しマルクスが支配して居る（佛文はドミネ、パール、カルル、マルクス、英譯には「全くマルクスの足下に踏み付けられてゐる」と譯してある。）總本部の專制主義に嫌氣がさして全團體を同盟組織にして各部に大なる自治權を與へることを推奬した。彼の説に瑞西「ユーラ」同盟の代表者又フランス、ベルギ、スペインの代表者の多數及イタリ代表者全部が贊成した。それにも拘らず彼はマルクスの味方のためにインターナショナルから追放せられた。マルクス派社會主義者と無政府主義派社會主義者との晴れの破裂は――兩者の軋轢は其後益々甚だしくなることを止めない――此瞬間に始まつたのである。尤もマルクスの創めた其儘

のインターナショナルも此處ヘーグ會議に於て終りを告げた。其事務所はマルクスに依て合衆國へ移された。それ以來は其團體が會議を開いたとはない。バクーニンも同時に喧嘩を止めて何處までも忠實な味方になつて留つてゐる人々と與にジユネーヴに於て新しい團體を造つた。」七六一頁はどうだ。「レニンの著書に依つて吾人の知つてゐるボルシエヴヰズムと云ふのは（第一）古い革命的學説殊にロシアの學説例へばナロードニキ（南方の革命團體）の學説の焼直しであり又（第二）特に古い學説の中の二種なる無政府主義とマルクス主義との焼直しを政治思想に應用したのである。併しソレルがマルクス主義に自由主義的傾向の無政府主義を混和したのに反してレニンは無政府主義の理想に極端なマルクス派の權威主義の烙印を付してゐる。レニンは自ら共産主義者と名乘つてゐる、而して彼の黨派の公用の名前も其れである。云々」は博士讀んだ事があるかね。讀めるかね。インターナショナルの歴史を抜きにして「古い學説の中の二種なる無政府主義とマルクス主義とを焼直し」と云ふ言葉が意味を成すかね。マルクスのインターナショナルに於ける行動は經濟史の區域から出發して政治史の區域まで進入したのである。尤もマルクスは理論的に（「資本論」の著述に由て）成功した程に實際運動で成功した人ではない。此點はラサルと正反對である。併し、世界戰爭の後、勞農政府が出現して以來日本だけではない世界の政治經濟文學哲學が盡くマルクスと云ふ名で一括される程になつた今日「マルクスのインターナショナルに於ける行動が經濟史の問題であるとは驚きました」なんて此方では其のボンヤリさ加減に驚くワイ。「マルクス」は經濟史政治史丈ではない普通の萬國史の看過する事の出來ない名前である。ウエーベルの大の最新版は無論の事、小萬國史にでも世界戰爭前の一九一一年版六一一頁に「インターナショナルが倫敦で出來た、其首領はマルクスであつた」と書いてある。フヰシヤの萬國史五八九頁にもマルクスの名前の處にインターナショナルの事が書いてある。

私は大正七年頃獨逸が勝誇つてゐる最中大阪の高等小學で二晩續けて演説した事がある。前の晩に文部省の攻撃をウンとやつた。すると翌晩演説を始める前に區長學務委員と云ふ連中で、「今晩は教育攻撃を止めて呉れ」と云ふ請求であつた。「承知しました」と口先では答へたが腹の中は納まらない。演壇に登るとやつた。諸君、昨晩の教育演説が御氣に召さなかつたさうです。今晩は教育演説はやりません。一體諸君は何と心得て居ますね。此戰爭で獨逸が勝つても負けても獨逸皇帝は其位に留まれませんよ。負ければ無論島流し、勝てば戰後國內に暴動が起つて政府が顚覆します。近き將來にヨーロッパにはメだのメだのと云ふ者はなくなります。世の中がそんなに進步しつゝあるにも氣が付かないで丸で今に猫の評になるのも知らないでチユウチユウ騒いでゐる鼠の樣な眞似許りして居なさる。今の達眼者及後の公平なる歷史家の判斷では此世界戰爭が全世界の社會主義に化する發端なのです。大阪市民の此浮氣調子は何んですか。講和と云ふ聲が一聲響いたら最期、一番先に片付くのは大阪ですよ。私の演説が聽きたくないとなら私も二度とこんな馬鹿な處へ來たくありません」と。

秋の俳句

謙郎

日まはりの實を喰ふ秋の男かな
オイと呼ぶ波のこだまや萩の花
酒のんで秋の女と語りけり

大正十一年九月初版大正十三年十月十版「ボルンエヴイズム研究」抔と大袈裟な本を著して昭和の御代になつてもまだ「そんな經濟史なら知りません」なんて善くも恥かしくない事である。「研究」抔と名が付くとエラさうに聞こえる。一寸開いて見ても間違ひだらけだ。委しく調べたらどんなに間違つて居るか知れない。世間の馬鹿者が騙されてあんな下らない本を三年間に十版になる程買つたものと見える。ボンヤリな男がエラさうな顏をしてボンヤリ知つてゐることをさも「ヘクガク」（二通り書方があることを讀者に注意して欲しい）の樣に辻褄の合はない書方をして出版するとボンヤリな世人が喜んで買ふ。此れこそ實に驚くべき事實である。博士は復た言ふだらう。「善く讀みもしないでやる漫罵だ」と。あんな下らない本を善く讀まされて溜つたものか。併し一寸開けて氣の付いた點は指摘して置かう。福田氏が正直なら「そんな經濟史なら知りません」でなくて「私は全く經濟史は知りません」と兜を脱がねばなるまい。自分の知りもしない事を知つたか振をして本を著すから其の智識が薄紙（晋讀すべし）に値すと謂はれる樣になるのだ。

私の指摘した誤譯のある處はベクーニンとマルクスとが大破裂の前に小喧嘩をやつてゐる最中の事である。昨年或る外の本の誤譯の種が福田譯に在ることを知つた時讀んだのは福田氏の著述に出てゐる佛語の原文とメーリングの翻譯と其福田譯と丈で唯此三著を比べた丈であつた。此度は「進め」七月號の返事を書くために同書中關聯してゐる箇所丈二三頁讀んで見た。すると驚いた博士の無學な山師なのに。誤譯の箇所の說起しを紹介しやう。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「メーリングは其マルクス傳に獨語を以て右文の主な箇所を引用して居るバクーニンが右の返事を認めたのは、ヘルツエンの來書中バクーニンがヘツスやボルクヘイムの樣な名も無い人々とのみ交際してマルクスの樣な有力な同志と交らず却て「獨逸猶太人」など、云つて漫罵して居るのをバクーニンの爲めに取らずとあつたに對して何故マルクスと事を共にせざるかの理由を述べたものである云々」

之を讀むと大抵の人が（此喧嘩の事を何も知らない人なら）感心するだらう。「稲田先生は何でも善く知つて居られる」と驚歎する人もあるかも知れない。處が滑稽だ。博士は自分の知らない事を如何にも精通して居るかの樣な態度で出鱈目を書いたのである。メーリングの讀めもしない男が讀める樣な振をするから此んな馬鹿氣た間違ひが起るのである。智惠のある人なら自分の讀めない處は知らぬ顏をして拔かして置くのだが、御氣の毒な事には稲田博士程度の低能になると自分で讀めたのか讀めないのかの區別が付かない、從つて間違つた譯を平氣でやつて向の樣な男に止を刺される。智惠があれば向何かと喧嘩を始めないのだが、そこがボンヤリの悲しさ、ついうつかりして恥晒をやる。「理由を述べたのである」と結ぶと如何にも自分の加へた說明の樣に見える。知らない人にはエラさうに聞える。實はメーリングの飜譯である。處が御氣の毒な事に飜譯が間違つてゐる。而して其間違ひが博士が何も知らない癖に知つたか振りをする男だと云ふことの確證になる。同じ誤譯でも今少し尻尾の出ない樣な誤譯位で濟まされさうなもの。ヘツスやボルクヘイムは盛んにバクーニンの惡口を謂つた連中で、バクーニンが友として交はる處ではない、バクーニンの正面の敵なのだ。メーリングの原文には「と交際して」抔と云ふ間拔は書いてない。「を相手にして」「ジヒ、アインラッセン」と書いてある。「敵として對手にする」と云ふのを世界に名の聞えて居る博士が「一友として交はる」と誤譯したのだから始末が惡い。文字は讀めなくても事實を知つて居れば敵と友とが取違へられる譯はあるまい。知りもしない事を知つたか振りをする男だと謂はれても返事は出來まい。出來るかね。「マルクスの樣な有力な同志と交はらず」は垢拔けがして居る。原文には「マルクスと決鬪する」「フォール、ディ、クリンゲ、ネーメン」即ち、双の前に取る即ち決鬪すると書いてある。「低能學者の飜譯心理を解剖して見ると「相手にする」は「交際する」でよからう「双」抔と畏ろしい字が用ひてあるから意味はよく判らないが「有力な同志と交はる」位にして置かう」と云ふのである。憫然の至りと評する外はない。メーリングの正しい譯を左に紹介しやう。

一合や今宵月見の酒の味

鷄頭に花の匂ひのなくもがな

足音や靜かに今朝の秋となり

肌戀しをんな戀しや今朝の秋

味噌汁のねぎ香つくや今朝の秋

ちよろ〱と小鼠おかし今朝の秋

ヘルツエンはバクーニンが（マルクス等を）「獨逸猶太人」として攻擊するのを咎め且バクーニンがマルクスに眞向から參らないで唯ヘツスやボルクヘイムの樣な名も無い人々を相手にして居るのを驚いて居た云々。

「人種問題と主義の爭ひとを混同して、猶太人種だと謂つてマルクスを排斥するのは宜しくない、殊に驚くべきは、何んだつてあんな下らない奴等を對手にするのだ、同じやる程なら面と向つてマルクスとやれ」とヘルツエンが詰つたと云ふ意味をメーリングが簡單に面白く書いて居るのを稲田博士は丸で味はひ得ないのである。博士よ、此れ以上に味噌の付け方があるかね。ヅブトイ事は確に日本一だ。此れでゐてまだ稲田式の經濟史があると云ふのだから畏れ入る外はない。智識と云ふのは黴の生えた樣な外國學者の說の誤譯。世界戰爭以後の經濟史は社會主義の歷史と謂つた方が早いことを知らないのも無理はない。マルクスは經濟史中の人であり、哲學史中の人であり、政治史中の人であり、萬國史的の人物である。セルヴイアの名もない一青年の指の先の一寸動いたのが世界歷史に一新紀元を劃する程の世界戰爭を引き起したのだ。マルクスの一擧一動が經濟史上の事實でなくて何んだ。

博士は恐らくマルクスの思想の中心になつて居る「唯物的歷史觀」と云ふ言葉の意味が判らないのだらう。此んな下手な名を付けたのはエンゲルスが惡いのであるが、マルクスの哲學がカルル、ディールやパウル、バルト等が謂つて居る樣に「經濟的歷史觀」と名づくべきものであることは間違ひないヘンメルシユミツトの言葉を假りて言へばマルクスの眼に映ずる所では「凡そ歷史中の出來事は盡く經濟的關係に歸着するものである。」世界戰爭以前に於て已に勞働運動が國際的になつて居たのもマルクスのインターナショナルに於ける行動の結果である。世界は兎も角も我國今後の經濟界の大問題は樞密院の相場師の言動取締でもなければ銀行ゴロの辣腕の跡始末でもない。實にマルクスの名に因つて蔓延しつゝある勞働問題である。始末の惡いのは不經濟な經濟學者だ。マルクスの手に成つたインターナショナルの綱要の中に「勞働階級の經濟的解放が大なる目的であつてそれには凡ての政治的運動はその補助手段として從屬すべき

ものである」と云ふ文句のあるのは白痴否蕩紙否博士は果して知つて居るのであらうか。

（註）

恐慌と危機

「恐慌」といふ語は多分明治の初年に福澤先生か其の直弟子かゞウエイランド又はフオーセットの經濟原論を講演するに當つて用ひられた譯語で、英語の「ペユック」の譯である。「パン」即ち「不意に怖を感ぜさせる鬼」と云ふギリシヤ字から出たのであるクライシスは醫學上の言葉から來たので、危篤の危の字の意味を有つてゐる。故にクライシスは當時「危機」と譯したのである。此節の無學な經濟學者がクライシスの譯として「恐慌」を誤用し、ペユックには新に「金融上の動亂」抔と云ふ下らない譯を用ひる樣になつた。此の間違が福澤先生の直弟子の時代に始まつたものでない事は想像するに難くない。始て僞を作つた者が何學校出身であるか、專修學校出であるか帝大出か、高商出か、但しは早稻田出か研究の價値のある問題である。クライシスにも種々あるが、我國の經濟學者にはクライシスを唯生產危機のこととのみ心得てゐる人もある樣である。其れは大なる間違で、危機には種々ある。昭和二年の銀行の騷は世界戰爭後に起つた世界經濟史の危機に加ふるに我國特有の生產危機泡沫會社設立危機を以つてし、之に胚胎した信用危機が馬鹿な相場師に煽られて終に恐慌を起すに至つたのである。恐慌は必ずしも危機の結果として起るものではなく、危機必ずしも恐慌に至るものでもないが、此間の騷は信用危機が相場師伊東茱に煽られて恐慌を起したのである。併し原因は遠く世界大戰に胚胎し政治と商賣が相携へて惡事を働いた結果である。時勢遲れの政治家と奸惡な政商とのために善良な國民が犧牲にせられたのである。閑暇の出來次第「危機」と「恐慌」との間違の詮索をして見たいと思つて居る。些細な間違ではあるが、是が文部省が敎育を掌るなんて、柄にない間拔を遣つて居るのに基いて居ることを知つてゐる私から觀れば、福田君の言葉を借りて言へば「一蹴し去る譯に行かない」問題である。無學な男が學者振る樣になつたのは、皆文部省の罪だ。（八月五日）

「ブルジョアとせよとの仰せですが、私は近頃はブルヂョアと書きます。而してそれが正しいと信じて居ます」とある。一體無學な男が信じてゐたら、其れが學問上に何程の價値があるのだね。「近頃は」も變だ。昔はマグレ中りで「ジ」と綴つたこともあるといふ意味かと思はれる。ブルジョアはフランス語だ。フランス語にはヂの音は全く無い。英語にはヂもジもある。普通の日本人の發音にはジの音はない。文字で「フジノヤマ」「フヂノヘナ」と書分け能ふ人でも、口では兩方共「フヂー」と發音するのが普通である。併し福田君に取つては、シでもチでも同じ事だらう。ヘクシはヘクチに通ずと云ふ程度の人に向つて、シとチとの區別を說くのは野暮だ。

「『勢力を振ふ』と改めよとは、インターナショナルの精神を解しないにも程のあつた御論です」なんて全くヘクチでなくては言へないことだ。一體福田君は經濟に關した事を何を知つて居るのだね。インターナショナルが、マルクス派とバクーニン派と二つに分れたのは、マルクスが勢力を振ふ主義を執るのにバクーニンが反對したからなのだ。マルクスはインターナショナルの法王と呼ばれる程の男だ。福田君はインターナショナルと云ふ名前だけ知つて居るのかね。名前しか知らない男に精神もヘツタクレもあるものか。全くヘクチだ。名前の外何も知らない男が知つたか振りで「ボルシエヴヰズム研究」と大袈裟な名を付けた全部誤譯の本（例へばレニンの「國家と革命」でも最初から間違つて居る）を著して世間を瞞着しようとするから、薄つぺらな智識の厚い面の皮を剝かれるのだ。自業自得と觀念し給へ。「私は其樣な經濟史は知りません」なんて、どんな經濟史も丸で知らないではないか。マルクスのインターナショナルの行動を經濟史の問題でないと主張するのは、多分あれを唯社會問題の事實と看做せと云ふ意味であらう。是れ福田君がマルクスの人物を知らず、マルクスの學說を知らず、マルクスの實際運動の目的を知らず、其の運動の影響の及ぶ所を知らず、現今の社會運動の歷史を知らざることの確證である。多分福田君の讀んで居る經濟史と云ふのは、イングラムのヒストリ、オヴ、ポリテカル、エコノミ（一八八八年出版）位のものだ。社會主義の事は全く拔にしてある。黴の生へた本だ。二十年は愚、四十年昔の本だ。多分御負に碌に讀めないのだ。本誌四月號には「我國の經濟學者の中には福田君程本を讀んでゐる人は恐らくあるまい。否無いと斷言しても宜しいと思ふ。福田君が讀んで居る事は事實だ。併し讀めない事も事實だ」と書いて置いた。あれは取消しだ。「讀めない事も事實、又讀んでゐない事も事實」と訂正する。福田君の言葉を借りて言へば「……かと思つた私の愚さを私は自ら憐むに止めて置きます」だ。

インターナショナルの名前しか知らない男が、インタナショナルに關した記事を誤譯するのは、當然の事。四月號の原稿を書く時には「いくら語學が出來ないにしても、事實を知つてゐる筈の人が、こんな誤譯をするのは、不思議だ」と思つて居た。七月號の福田君の返事を讀んで始めて謎が解けた。誤譯をしなかつたら不思議だ。丸で知らない事を、知つたか振りで、讀めもしない本を飜譯するのだから、間違ひが無かつたらそれこそ不思議だ。本來メーリングの「マルクス傳」は、福田君の樣な無學な男がマルクスを知るために讀む本としては、不適當だ。メーリングには事實は澤山並べてあるが、木を見て山を見ずで福田君程度の人があれに由りマルクスを知らんと企てるのは間違ひである。況んやメーリングを（讀めないからでもあらうが）、碌に讀んでゐない證據が十分に擧がつてゐるに於いてをや。

七月號の返事で、福田君の無學なに驚いて「ボルシエヴヰズム研究」中の

關係の場所を讀んでゐる時に、本が風に吹飛ばされて二四一頁が出て來た。驚いた。此本は大正十一年九月の發行で、十版は大正十三年十月版である。其の十版二四一頁に依ると、稲田君は大正十三年十月迄は、リカードーの學説も碌に知らなかつた。博士には何年になつたかね。大正十四五年版には、訂正がしてある。其の訂正は小泉君の本に由つて爲したのである。而して其の訂正が復た間違つてゐる。又「ラサル」の名前は十四五年版でも矢張り「ラサルレ」と綴つて居る。御氣の毒な事には、小泉君が外國人の名前を書くに、ローマ字の綴の儘にして、日本の假名を用ひなかつた事が災を成したのだ。小泉君は稲田君の御弟子だから、今少し親切に名前を假名で綴つて置いてやればよかつたのだ。神ならぬ小泉君、著述に方つて、まさか自分の先生が、後日己れの説の誤謬を、自分の著述に由つて訂正するとも思はなかつたのであらう。

二四一頁の處は、十四五年版に於て、十三年版とは丸で違つた説になつてゐる。而して「小泉信三教授著『經濟學説と社會問題』を見よ」と附記してある。如何にも公明正大な學者の態度であるかの樣に見せ掛けたのである。從つて訂正の文句には、小泉君の言葉其の儘は用ひて無い。小泉君の言葉の代りにシウモレルの經濟原論の飜譯が載せてある。飜譯とは正銘打つてない。併し向の眼力では、直にそれが飜譯であり、而して誤譯である事が判る。

稲田君が如何に大なる無學者であるかは該書、二四一頁から二四八頁の議論で明證である。昭和二年七月進め」の論文の程度が、本當の稲田博士の程度である。十四五年版の訂正の處丈がプラスで、其の外が全部マイナスなのだから、マイナスの方が本性で、プラスの方が付薬だと云ふ事が善く判る。畫家畫月の法と云ふ事がある。月は描かないで、周圍の雲を描いて居る中に月が獨りでに現はれて來る事である。稲田式訂正法と云ふのは、一理のプラスに由つて、全豹のマイナスを明かにする法である。

「ラツセル氏の此論文は、多少推敲不足の處がある樣である。例へば「勞働組合をして意氣沮喪せしむる爲めに正統派の經濟學者が發明し、革命を鼓吹する爲めにマルクスが承認した賃銀の鐵則は經濟學上の誤謬であつた」とあるは一の適斷、若くは誤斷である。此事は曾て「階級鬪爭當事者としての雇傭所得と資本所得」に於て少し詳しく述べて置いた。又小泉教授の諸論文にも屢々言及してある。(向日く此點も事實相違に違ひない。後に論じる)「賃銀の鐵則」を形づくつたのは正統派經濟學者ではない、ラサルレである。而してマルクスは徹頭徹尾之を斥けた。エルフルト會議に於ける社會民主黨綱領の修正とは即ちラサルレの鐵則を認めたゴタ綱領を捨てゝマルクスの賃銀論を採用したので、此は誰も知つてゐる有名な事である。正統派經濟學者が發明したといふ事は「勞銀基金説」に就て言はねばならぬのである。云々(二四一頁)

右正統派經濟學者と云ふのは、リカードーと指名する代りに用ひた名前である。リカードーが發明したのは「勞銀基金説」だと言つて居るので、稲田君が、實際リカードーの學説を熟知して居ない事が判る。熟知して居れ

「賃銀の鐵則」を形づくつたのはリカードーではない。リカードーの發明したのは「勞銀基金説」だと言へる譯がない。何となれば「賃銀の鐵則」がリカードーの第一位の主張で「勞銀基金説」は其の第二位の主張なのだからである。稲田君はリカードーの學説を丸で知らないのだ。ラサルはリカードーの説に「過酷な名前」を付けた丈で、實質は、ロツシエルの説に由ると、ラサルがマルクスから拜借したのだ。慶應の教科書の中に、此のロツシエルの説が出て居る。慶應の學生笑つて曰く「稲田さんはロツシエルを讀んで居ませんね」つて。實はロツシエル丈けではない、大抵の本が讀めないのだ。其證據には、稲田君の虎の卷のメーリングも、三一五頁に「事實上ラサルが(マルクス)の共產黨宣言から取つたのだ」と言つて居る。是こそ經濟學者は「誰でも知つて居る」知らないのはハクチ丈けだ。ラサル自身が「余は、此法則の存在を主張する事に依つて、現代の最良なる社會思想家と全く説を同じくした立場に立つて居る」と罵つて居るのを見ても、該説がラサルの獨創でない事が判る。マルクスは徹頭徹尾之を斥けた」は嘘の皮。マルクスに三十歳の「共產黨宣言」時代から五十歳の「資本論」時代迄に學説の變化のあつた事を知らないのだ。マルクスが自分の説をヘツキリ公にしたのは、四十一歳の時。四十九歳の時マルクスの説が完成した者となつて「資本論」に由つて世に現れる迄にマルクスの思想が如何なる經路を取つたのか、稲田君は知つて居るかね。マルクスだつて何等基礎の無い處に奇想を天外から得たのではない。結局リカードーの説の燒直しだ。學問と云ふ者は其うした者だ。ラサルだつて、今少し長生して、マルクスと仲善くして、マルクスの説の完成した時、其説を拜借すれば、稲田君に笑はれないで濟んだのだ。マルクスの價値論だつて、稲田君の程度にあれを有難がつて居る者は、世界廣しと雖も、ヘクチの外には無い。「資本論」は思想の支離滅裂になつた本」と云ふ説が、正しいか否か稲田君には丸で判るまい。マルクスの思想は變化した、併し「賃銀の鐵則」が取り切れて居ないと云ふ説はどうだ。稲田君、脈を抜かさない樣にね、間の抜けたのは仕方がないとしても「誰も知つて居る有名な事」は、大層エラさうだが、其實御本尊は、表面の成行を少し知つて居る丈けで、實際の事情は丸で知らないのだから、滑稽だ。(終り)

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

勞働運動講座

國際勞働運動(一)

淺野研眞

はしがき

一、私は前號までに於て、一と先づ『歐米勞働運動小史』を講述し終つた。(いづれ其はパンフレットとして近刊されるであらう)。他方、既に私は『日本勞働運動小史』(進め社發行)なるパンフレットを公けにしてゐる。かくて私の勞働運動小史の三部作の殘りの一つたる『國際勞働運動小史』が、必然的に續けられなければならなくなつて來た。

一、私の云ふ所の國際勞働運動小史は、取りも直さず、普通に云ふ所のインタナショナル小史なのである。それは近世プロレタリア運動に於ける最もエレメンタールな部門なのである。それを私は本號から以下數回に亙つて講述する心算である。ひとえに讀者諸君の御愛讀と御高評とを乞ふて止まぬ。

一、筆者は大正十一年に『インタナショナル發達史論』なる、小冊子を公けにした事がある。それから其に増補を加へて『インタナショナル發達史』なるものを大正十五年に公にした。それは『著者の淺學不明のために、極めて覺束なき述作たるに至つたことを恥づる』(同書はしがき)ものである。尙ほ其は筆者の甚だしき不用意のために、その主要參考書目中に明記した、山川、高治兩氏の論文を、不注意にも無斷借用せるの結果となつた。此の點は深く陳謝して置かねばならぬ。

一、筆者は今後とも大いに此の研究に努力し、全世界のプロレタリアートの共同所產として、インタナショナルの歷史を完成したいと思つてゐる。然し今は單なる小史たるに止ることを諒せられたい。

第一章　緒論

近世初期の社會運動は、主として英佛の社會思想家によつて提唱されたものであつた。從つて彼等及びその運動の間には、一定の國家的制約があつて殆んど國際的には無關係であつた。然し時としては、各派とも多少は相互的聯絡を謀つたことが皆無ではなかつたが、それとても大きな範圍に於てではなかつた。且つ此時代に於ける勞働運動そのものは、主としてフランス大革命當時、及び其以後の所謂ブルジョア運動か、乃至はその亞流の思想的運動たるに過ぎなかつた。

然るにマルクスの出づるに及び、彼は在來の諸社會主義思想を集大成し、自らの新體系を建設し、茲に社會思想史上に一新紀元を劃するに至つた。即ち社會主義は彼によつて、一つの科學となつたのである。即ち彼は、實踐的運動としての勞働運動を提唱し、且つ此を一國的たるものにのみ局限せず、進んで國際的運動へと進出せしめんとした。

かくてインタナショナルは發生したのである。即ちマルクス主義的勞働運動の合言葉は、萬國の勞働者團結せよ、の下に、必然的にインタナショナルの運動へと合流するものであつたのだ。人類文化の一般的進展は、日に日に、文化の凡ゆる部門に於て、インタナショナルを發達せしめつゝある。此時に當り、プロレタリアのインタナショナルも、今や廣汎なる鬪爭段階を過程しつゝあることは事實だ。

吾々は簡單乍ら、以下その發展過程を跡づけるであらう

第二章　前史

一、序説

インタナショナルの前史は、強いて遡ればフランスを中心としたバブーフの運動や、ブランキの運動などに初まる。乃至は亡命者同盟(一八三四―三六年)や、伊太利のマチニーの青年運動などに出發する點もある。

然し、もつと具體的なものとして擧げらるべきものは、義人同盟(一八三六―一八四七年)と共産同盟(一八四七―五四年)とであつた。

二、義人同盟

一八三六年、巴里亡命中の獨逸人の一團によつて、一つの結社が組織された。これが義人同盟と名付けられた。それは共産主義的原理を奉じてゐた。彼等は一八三九年の巴里の一揆に參加した爲めに、追はれて倫敦に移つた。茲には北歐諸國からの勞働者が來集して居つた。そして彼等の間では、獨逸語は比較的に話され易かつた爲め、義人同盟も、やがて國際的性質を帶ぶるに至つた。

而して彼等は秘密結社や××的一揆が、不利なる事情の下にあることを知り、遂に國際的運動を以て、全世界的に、資本主義的經濟組織の變革を行ふことの有利なるを考ふるに至り、此を宣傳するの至要なることを感ずるに至つた。そして其のためには、先づ自己の階級の地位、及び將來を理解せねばならぬ。茲に於てか、彼等は當時やうやく其の英名を擧げ初めたマルクス及びエンゲルスに向つて、その加入と指導とを申込んで來た。

かくてマルクス、エンゲルスの兩人は、一八四七年の初めに、遂に義人同盟に加入し、その宣言の起草を引き受けた。

次いで一八四七年六月一日には、ロンドンに於て義人同盟の第一回大會が開催された。マルクスは當然出席する筈であつたが、旅費の缺乏等のためにウオルフがブルッセル支部を代表し

て、またエンゲルスが巴里支部を代表して、それ〴〵參會した。會議の最初の相談は、同盟改造の問題だつた。即ち同盟は、未だ舊式な陰謀團であつた時代から持續して來た義人同盟と云ふ神秘的な名稱を捨てて、新に共產同盟と改稱することになつた。それと共に組織も一層民主的に改造され、純然たる宣傳結社たるに至つた。

かくて義人同盟の第一回大會は、直に共產同盟の第一回大會となつた。

三、共產同盟

前述の如く、一八四七年六月一日の義人同盟の第一回大會は、直に共產同盟の第一回大會となつた。

大會は規約の改正を議し、また同盟の綱領たるべき「共產主義信仰告白」の起草を、マルクス及びエンゲルスの兩人に委托することになつた。

同年の十一月二十九日から十二月八日にかけて、第二回大會が再びロンドンに於て開かれた。この時には、マルクスもエンゲルスも兩人共に出席し、全會一致で新に「共產宣言」の起草が、マルクス及びエンゲルスの兩人に委托された。

かくて大年一八四八年、二月革命に先立つ數週にして、かの有名な「共產宣言」は發表されたのである。それは「從來の社會の歷史は總て階級鬪爭の歷史である」との語に初まり、同盟の標語たる「萬國の勞働者團結せよ」なる言葉を以て終つてゐる。それは今日から見れば、全く所々時代おくれの箇所もあるが、正しく一箇の重要な歷史的文献たるを失はぬ。

二月革命は、フランスを中心として、その波紋を全歐洲に及ぼしたが、結局は反動政治のために壓迫せられ、次いでプロレタリア運動の凋落期を伴つた。

從つて共產同盟も甚だ振はず、二月二十一日、巴里革命の卽日、ロンドンの同盟本部を解散して、ブラツセル支部に實權を移したが、三月四日には再び巴里に移つた。かくて此以後は殆んど有名無實のものとなり、一八五二年のケルン共產黨事件以後は影をひそめ一八五四年のフランクフルトの會合以後は全然消滅した。

かくて共產同盟は今や全く自滅した。然し、やがて十年を經て、一八六四年に至り、今度は大々的に、所謂第一インタナショナルとして創立さるることになるのである。

かくて、初めてインタナショナルはその文字通りの名稱の團體を組織するのである。

附記――次號には第一インタナショナルが講述されるであらう。

公式主義的理論を破れ

日本勞農總聯合及で日本勞農黨系の理論雜誌として「プロレタリア」といふ雜誌が九月より創刊された。それに言ふ如く我等もまた「我々は又我が國無產階級の現實の鬪爭過程が我等のプロレタリアをます〳〵完全なものたらしめるであらうことを信じてゐる」ものであつて、隨つて、無論創刊號を以てこれを批判するはあまりに酷な様であるが最も好意ある立場よりその行方を批判し、なほそれを警戒する。

彼等は言ふ（政治主義の誤謬二十六頁）「資本主義經濟組織の下のあつて、勞働階級の生活過程は、勞働階級がその歷史的使命を意識するところの基礎的立脚地ではないか」然り大いにそうである。が併し「社會進化の過程」を決定せんとする戰略の對照的根據ではない。これを彼等が「物質生產過程は勞働者階級にとつては其の階級意識の原子である」といふ認識から階級戰略の對照をこの狹き範圍に限らんとする公式的理論の矛盾を固守しやうとする。所謂主觀的現象の範圍を客觀的現象の範圍に迄發展せしめ様とする危險を感受する處の理論的領域の公式主義振りである。この根據は、彼等の理論的始點▼ルクスの懐にかくれ様とするあはてふためきからの醜體振りである。これは特に彼等の理論家河野密氏の最も露骨なる態度である。隨つて河野氏の理論の中には、活躍的發展的躍動がない、横たへられたる屍の理論にメスを揮ふことは上手かも知れないが、實際の理論を數ゆることは不得手である。我等は雜誌「プロレタリア」同人諸君の今後に於けるこの影響を恐れる。これより發展せんとする創刊號に依つてこの獨斷を投げつけるのは、あまりに獨斷過ぎる獨斷ではあるが、同誌の發展のために一言する次第である。

（二十二頁より續く）

豚の如く貪慾なる都會の搾取は、たゞに小作及び自作農者を困苦の淵に突き落したのみならず、地主をも窮乏せしめた。地主は必然に土地を所有してゐることの割に合はぬことを痛感する。見よ！　昨年の「地主評議會」に、地主自ら「土地國有案」を提出してゐるではないか。「自作農創定法」によつて、地主は地代を握つて完全に農村から離脫せんとするのだ。必然に貨幣資本は徹底的に都會に集中する。「地代」を握られて地主達に去られた農村の悲慘なる金融の逼迫は火を見るよりも明らかであらう。隨つて農民は都市の銀行に金融の融通をあをぐ。利息を奪はれる。かくの如く、すべてが合法的に搾取は度を加へて行く。

『自作農創定法』

それに、地主をして、純都會的（今までも地主の大部分は都會の企業家であり、金融家であつた）な立場に立脚せしめ、一齊に農村の虐殺的搾取を決行すべく、その展開過程の具體である。

直接には「小作爭議からの逃避」と「普選に備ふる餌」間接には「農村への全面的搾取」それが、「自作農維持創定法」の「欺瞞的役割」であつた。

小作農民よ！　我々は何故に彼等から土地を「買」はなければならないのか。金を出して……。そんな理由はない。何等の理由なくして幾歲月、彼等のために搾取されて來た我々の決定的損失を瞬時も忘却する勿れ。今やダニの如きブルジョアジーは都會プロレタリアートの撤底的攻擊にたじろいて、比較的封建的氣風の殘存する農村にその毒々しき媚態をくねらせつゝある。

過英、我々はすでに資本主義の魔手の下に無產化されてゐる。「打倒資本主義」此スローガンはまた我々のスローガンである。今や近代的プロレタリアートとして、農民は一齊に階級戰線の重要なる一翼に隊列せよ！　陸軍大將的反動内閣の迫害の矢面に突進せよ！　惡逆無道なるブルジョアの陣營を擊破せよ！　うえたりといえども我々には「正義の旗」と「團結の力」とが殘されてゐる。（二・八・二〇）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

戯曲

同志の人々

吉田金重

人物——久野文子三十一歳、山本八郎二十五歳、早川達男二十歳、石田健吉三十歳、加島士郎三十八歳、同明子二十六歳——その他、男女の同志數十名と、警部補以下巡査十數名——。

時——大正十年の春——。

所——東京近郊のＩＮ會——。

正面には右に窓、左に押入が並ぶ。上手は障子を兄てゝ緣側、そして奥に便所のある心持。下手は襖を距てゝ玄關の間、そして奥に臺所のある心持玄關前の入口には破れかゝつた格子戸が閉まつてゐる。横は書籍、雜誌、新聞等によつて埋まつてゐる其前には机が二脚、障子の際に据へられてある。

久野、山本、早川の三人は、食後の卓を取り圍み、茶を飲みながら、雜談に耽つてゐる。

久野。かうしちやゐられない……(立ち上つて押入れを開け羽織を出して被る。)

山本。(不平さうに。)ぢや、どうしても?

久野。勿論ですとも! 感情の許さない限りは、顔を合すのもいやなことです。

山本。さうですか……(兩腕を拱き、力なさそうに。)いや、やむを得ないとです。

久野。早川さんすまないわね……(食後の卓を指す。)

早川。……?(顔を上げる。)

久野。行つて歸ります。(襖に手をかける。)

早川。(きつと膝を立て。)久野さんちよつとお待ちなさい!

久野。(振り返りながら優しく。)なーに?

早川。何ぢやない! あなたは、あなた自身に取つて、それが如何に重大な問題であらうと、同志としての?

久野。詰らないことを、仰しやるものぢやなくてよ。(につこり出て行く。)(石田健吉勞働服のまゝ、下手よ登場して玄關の格子戸を開ける。と等しく、久野文子が出る。二人は顔を見合せて、ぴつたり立ちどまる。)

石田。やあ、どちらへ?

久野。妾、あなたの下宿へでもと思つて。

石田。なぜです?(咎めるやうに。)今日は研究會があるんぢやないですか、それに加島が何かやるとか……

久野。さあ……(急に手を取り。)そんなことどうだつていゝぢやなくて、行きませうよ、一しよにそして、話しませう。

石田。いや!(手を振り切り。)あなた一人でいらつしやい、僕は久し振りに加島に會ひたいんだ。

久野。まあ、あなたまで?……

石田。僕までどうしたんです?!(玄關へ這入つて、格子戸を閉める。)

久野。どうするもんですか……(四五歩して急に立ちどまり、愁然と空を仰ぎ。)さう、戀はたしかに奪はれた、がしかし同志としての?(溜息とゝもに退場。)

早川が食後の卓を臺所に運び、洗ひものをしてゐる間に、山本は床の中や机の上を整理し、あとへ箒をかける。電燈が點くと等しく、石田が這入つて來る。)

石田。やあ、今晩は……

山本。いらつしやい。(箒を手にしたまゝにつこり近づき、握手を求めながら。)石田君暫くですね、やはり筋肉勞働を?

石田。はゝ、生きるためにはね……(やゝ低聲に。)久野さんは、どうかしたの?

山本。いやあ、あれか……(當惑げに。)加島君が、明子さんと結婚したので少々……しかし、無理はないですよ。

石田。あツ、それでね……(小首を捻りながら呟くやう。)如何に氣の強い、意地ツ張りな久野さんでもこればかりは……

早川。愚劣ですよ!(臺所から出て來る。)戀愛だ結婚だなんて……そんなものにこだはつてちや、何も出來やしませんよ!

山本。それやさうさ、こだはつてちや何も出來ないさ。(電燈をちらり見やり。)しかしわれ〳〵のすべては、イデオロギーのみによつて決定はされないからね。

早川。(突つかゝるやうに。)決定はされなくても、行動のすべてはイデオロ

ギーの反映でなくちやなりませんよ！

石田、どうも猛烈だね、熱心だね。その意氣あつてこそ……（玄關の方を振り返り。）加島君はまだかなあ？

（加島と明子が相携し、尾行巡査を屈從者の如くして、下手より登場。加島と明子が耳打ちしながら、玄關の格子戸を開けて這入ると、尾行巡査いづれへか去る。早川は玄關の間に、加島や明子を迎へる。加島と明子を中に、石田、山本、早川が取り圍んで、親しく話しかけやうとした頃、下手から三々、五々と青年の男女が登場し、思ひ／＼に玄關の格子戸を開けて這入る。間もなく、舞臺は主義と思想に燃え輝く、青年の男女によつて犇めき合ふ。山本は加島と低聲に、何事か頷き合ふと、机の抽斗から「クロポトキンの自叙傳に就いて」と書いた紙を出して、床柱に貼りつける。加島が演壇の代りに、机を前にした時、そして座席が緊張し、靜肅に沈んだ時、雜然たる洋劍の響き、靴音とゝもに、下手より警部補以下、十數名の巡査が登場、玄關の格子戸を開けて一名、二名と座席に交る。憤怒の瞳は、これら不意の侵入者に挑みかゝる。加島は瞑目し、俯向き込む。）

警部補。（入口にぬつと突つ立ち冷やかに。）暫く邪魔をさせて貰ふかな。

早川。（きつと膝を立て、警部補を遠く睨みつけ。）君達に邪魔される必要はない、歸り給へ！

山本。（袖を引きながら。）早川君……

明子。われ／＼の△△思想が權力や、暴力によつて阻止されるものならばね！（顔を紅に染め、前身を突き出しながら座席を見渡し、やがて隣の加島を振り返り。）さあ、あなたはじめて下さい、みなさんは待つてゐらつしやるのです。

（座席の中からヒヤ／＼の聲とゝもに、拍手の音かまびすしく起る。）

加島。（顔をあげ、眼を瞑きながら靜かに。）クロポトキンはその自叙傳の中で××に依つて支持される犯罪大學を説明してゐる。

警部補。（突然、加島の傍に近づき洋劍を突き鳴らし。）辯士中止、解散ッ

加島。何ッ

警部補。何とはなんだ！　檢束だ！（引き立てやうとする。）

明子。何を横暴をなさるんです！（身をもつて加島をかばひ、遂に警部補の腕に嚙りつく。）

警部補。（堪らなく背後へたぢ／＼、躓いて尻餅をつく。）檢束しろ、檢束しろ！

（巡査甲、乙、丙と近づき、警部補を助けると同時に、加島と明子を引き立てる。會衆は警官横暴！　莫迦野郎！　なぞ、喚號しながら立ち上り至るところで巡査と衝突し、亂闘をつゞける。この時ぱツと電燈が消えて眞ツ暗闇になり、喧々、囂々たる聲と、ドタン、バタンといふ音響のみ、しかし、それも次第に遠ざかる。）

――間――

電燈が點き、急に明るくなる。久野文子はあつけに取られたやう、取り亂したあたりの光景を見廻してゐる。そこへあはたゞしく、石田が歸つて來る。）

石田。おゝ久野さん、早く行つて！（急き立てる。）加島も、山本も、早川も檢束された！　ばかりか、あの明子さんは、職務執行妨害でやられるらしいのだ！

久野。えツ?!（びつくりしたが、やがて憤怒の瞳を輝かせ。）あんな、戀が出來ないあんな纎弱い女をまで、檢束ならともかく、職務執行妨害とは？　妾、妾どんなことがあつても、きつと取り返して來ます、つれて歸ります！

（玄關の方へ出かけたが、ふと頷きながら舞ひ戻り、押入れを開けて毛布を二三枚出し。）石田さん、あなたこれを持つて來て下さい、春とはいへまだ夜中は寒いから。

石田。まつたくです、いゝところへ氣がつきました。（毛布を引つ抱へ、久野のあとを追つて玄關へ出る。）

（二人が戸外へ出ると、月は冴え／＼と郊外の景色を白く染め出す。）

――幕――

編輯室より

何しろ紙面が狹いのでこれと思ふ原稿も遂ひ後廻しになつて筆者と讀者に申譯がありません。

が併し、内容に就いては充分に注意して、本紙從來の缺點を補つて行き度いと思ひます。

本紙は從來の體裁を幾分變へることにしました。

次號から「全土戰報」を必ず載せるつもりです。讀者諸兄は各地の正しい運動情勢をお知らせ願ひます。

本紙は更に計畫して最近急激に勃興しつゝある「婦人運動」「水平運動」「軍隊政策」「勞働運動の戰術」「政治鬪爭の戰略」「文藝運動の理論」等に就いての權威ある考察を掲載したい考へです。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

月刊

法律戰線

◇階級闘爭の合法戰術！
◇暴壓法令の突破逆用！

一部十錢・半年六十錢・一ヶ年一圓廿錢

發行所 東京・高田町雜司ヶ谷八一五
振替東京 第三六四五五番

勞働者農民の機關

月刊

勞農戰線

一部十錢 一年一圓

名古屋市中區上前津二番地

勞農戰線社

社會運動の急先鋒

月二回

大衆新聞社

一部五錢 一年一圓

長崎縣諫早町原口名六九二

大衆新聞社

加藤今一郎主幹

月刊

春秋新報

一部五錢

愛知縣半田港荒古町

春秋新報社

水平運動の權威

全國

水平新聞

毎月二十五日發行

一部五錢 一年六十錢

長野縣北佐久郡北大井村

全國水平新聞社

淺野研眞主幹

月刊

ソシウス

一部五錢 一年六十錢

東京赤坂青山局區内
青山アパート七九號

ソシウス書房

社會問題パンフレットを備へよ!!

マルクス

哲學の貧困

定價 一部三十錢 送料不要 切手代用可

マルクスの初期の名著『哲學の貧困』の要領よき抄譯。一讀その大要を知悉し得る便利なもの。

社會文獻

何を讀むべきか

定價 一部三十錢 送料不要 切手代用可

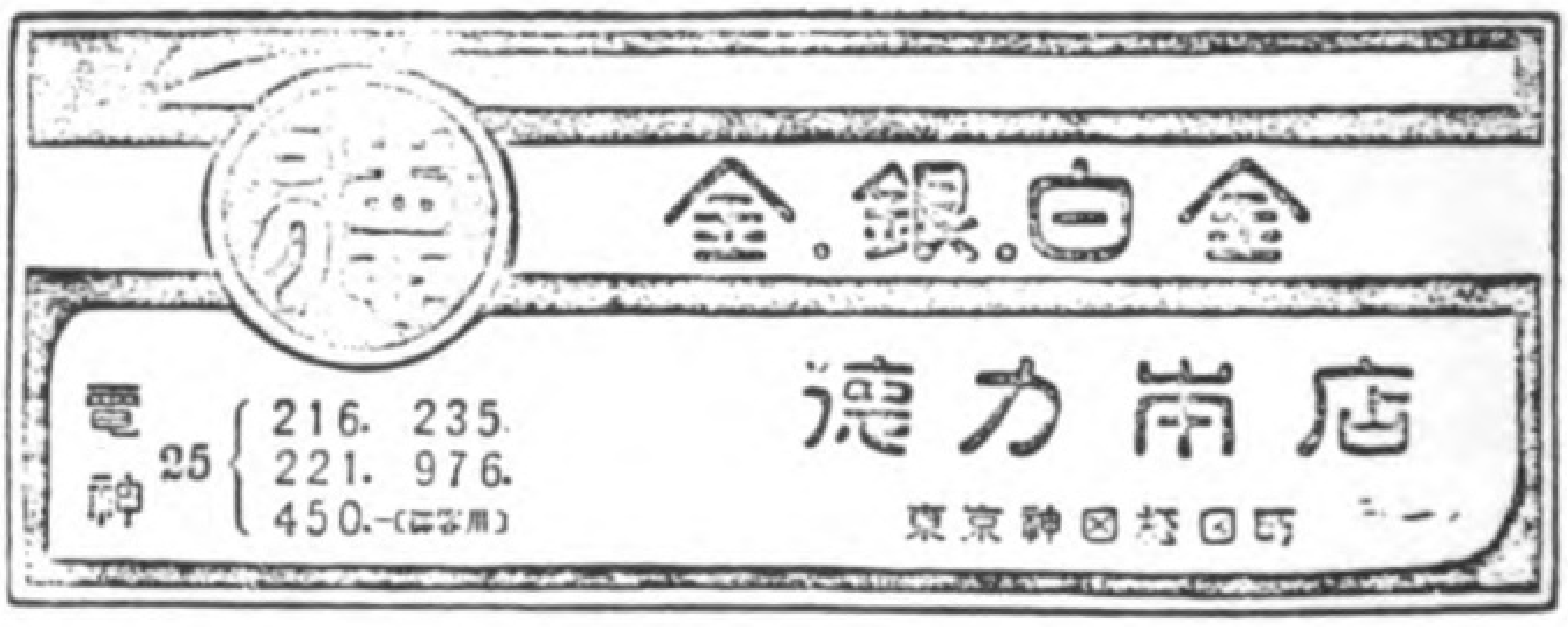
社會問題に關する主要な日本の文獻を網羅したもので、初學者にも研究家にも極めて必要で便利なもの。

發行所 社會問題研究會

進め社本部で取次する

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

喜谷實母散



資本金 壹千貳百五拾萬圓
窓硝子年産額 壹百四拾萬函
曹達灰年産額 壹萬五千噸

窓硝子
曹達灰
重曹
鹽化石灰
炭酸石灰
炭酸苦土
耐火煉瓦
補助肥料 促肥素

本社……東京市丸之内
工場……尼崎、戸畑、鶴見
出張所……東京、大阪、門司、名古屋、小樽
試驗所……東京

旭硝子株式會社

大正十二年一月三十日第三種郵便物認可
昭和二年十月一日發行
同 二年九月廿八日印刷納本
第五年第十號 每月一回一日發行
定價 一部十錢(税五厘) 半年六十錢 一年一圓(税共)
廣告料 一行一圓 一頁 三百圓
發行所 東京市外大井町鈴ヶ森海岸一八九〇(振替東京六九八八二) 進め社本部
發行兼編輯兼印刷人 福田狂二 大阪市北區老松町四一 大阪事務所

清新な趣味と實用に綾なす

内外のあらゆる流行品豊富

地方よりの御註文は御手紙にて通信販賣部宛に御願ひ申します

三越呉服店

大阪市高麗橋

新製品の發賣

改装せる懐中薬仁丹

仁丹特有の芳香は胃腸の消化力を促進し身心の爽快を醸す。

チューブ入仁丹の煉歯磨

高人の御嗜好と齒科學の精粹より生れたる優秀品

斯界の最高權威
仁丹の體温計

お客様の高島屋

實質本位の百貨店

高島屋呉服店

松屋の信條

弊店は常に良品本位に流行の源泉たるを期し品質納合を吟味に吟味致し御満足を願へる優秀品を差上げる事に努めて居ります

松屋呉服店

東京 銀座

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN